

理学療法学科昼間部 1年 (令和2年改定 教育課程)

分野	科目	講師名	ページ
基礎分野	哲学	井上 環 1
	教育学	井上 環 2
	情報科学	阿部 靖、坂本 聰、下村 周平、臼杵 寛 3
	物理学	鈴木 忠幸 4
	保健体育	小平 健太郎 5
	人間関係学	阿部 靖、坂本 聰 6
専門基礎分野	解剖学Ⅰ	羽原 弦史 7
	解剖学Ⅱ	羽原 弦史 8
	解剖学Ⅲ	羽原 弦史 9
	解剖学実習	外来講師 10
	機能解剖学Ⅰ	村井 敦士、石垣 栄司、塩澤 和人 11
	機能解剖学Ⅱ	村井 敦士、石垣 栄司、塩澤 和人 12
	生理学Ⅰ	黒澤 美枝子 13
	生理学Ⅱ	黒澤 美枝子 14
	生理学Ⅲ	小平 健太郎 15
	生理学実習	飯村 佳織 16
	運動学Ⅰ	塚本 奈々子、鍋城 武志、臼杵 寛 17
	運動学Ⅱ	塚本 奈々子、鍋城 武志、臼杵 寛 18
	人間発達学	黒木 光 19
	リハビリテーション医学概論Ⅰ	草野 修輔・工藤 征四郎・佐々木 和裕 20
専門分野	理学療法概論	阿部 靖・他 21
	PBLセミナーⅠ	木下 修、塚本 奈々子、高橋 豊、PT教員 22
	理学療法セミナーⅠ	高瀬 慎輔、塚本 奈々子、高林 礼子 23
	検査測定法Ⅰ【バイタル・形態】	高橋 豊、下村 周平、臼杵 寛 24
	検査測定法Ⅱ【MMT・ROM】	高橋 豊、下村 周平、臼杵 寛 25
	運動療法学Ⅰ	吉葉 則和、内山 結城、村井 敦士、畠山 敦 26
	運動療法学Ⅱ	吉葉 則和、内山 結城、村井 敦士、畠山 敦 27
	日常生活活動学Ⅰ	鍋城 武志、中村 信、高林 礼子、高橋 豊 28
臨床見学実習Ⅰ	理学療法学科教員 29	

科目	哲学	単位・時間数	2単位・30時間
担当講師	井上 環	学 年	1年生 前期
実績経験	資格		
	教育学博士課程		
授業の位置づけ	生命倫理、とりわけ医療倫理に関わるトピックについて概説します。臨床の場に立ち、他者の生に関わり介入をしていくことには、「その場面でどのような行為が最善であるか」という倫理的な問いが回ります。この問いは、なにより個別具体的な状況のなかで都度判断されるものですが、それらの判断を背後で支えるのは、科学や医療技術・生命倫理をめぐる歴史的・現代的な状況の認識や知識だと言えます。この授業では、そうした倫理的判断の手助けとなるような概念的な道具立ての獲得を、講義とともに「哲学対話」と呼ばれる実践を重ねながら目指していきます。		
到達目標	生命倫理に関わる重要な概念や論点を踏まえながら、自身の考えを深めそれを適切に表現することができる。対話を通じた他者との協同的な探究に参加することができる。		
授業形態	講義	遠隔授業とする可能性があります	

授業計画

回数	項目	講義内容
1回	ガイダンス	授業の概要・進め方・評価方法、哲学対話とは何か
2回	生命倫理学の歴史	20世紀アメリカにおける生命倫理学の展開
3回	哲学対話 [1]	日常における問い
4回	医療倫理	医療倫理の四原則、医師-患者関係の変遷
5回	インフォームド・コンセント	インフォームド・コンセントの歴史的背景と論点
6回	哲学対話 [2]	生命倫理・医療倫理における問い
7回	終末期医療	緩和ケア・鎮静、終末期医療の諸問題
8回	老いと医療	高齢者医療の諸問題、「老い」をめぐる問い
9回	哲学対話 [3]	生命倫理・医療倫理における問い
10回	医療資源の配分の問題	医療資源の配分をめぐる歴史的・現代的議論
11回	障害者・病者への差別と排除	障害者・病者への差別と排除の歴史
12回	哲学対話 [4]	生命倫理・医療倫理における問い
13回	優生思想	優生学の歴史、新優生学・エンハンスメントの問題
14回	ケアの倫理・臨床哲学	キュアとケア、ケアの倫理・臨床哲学の議論
15回	哲学対話 [5]	生命倫理・医療倫理における問い

成績評価	①各講義に対するリアクションペーパーの提出状況 (40%) ②学期末レポートの評価 (60%)	受講上のルール・留意点	学期末レポートでは、それまでの授業で行われた議論を踏まえた上で、皆さん自身で自由に問いを設定しそれに応答してもらいます。分量は1,500~2,000字程度を予定しています。「リアクションペーパー」および「哲学対話」の位置づけ・留意点については授業内で説明します。また、各講義のテーマや哲学対話の進め方については、実際の授業の進行状況を見ながら修正を行っていく場合があります。
------	--	-------------	---

課題やレポートに関するフィードバック

リアクションペーパーへのフィードバックは、授業内で全体に対し実施するとともに、必要に応じてGoogle Classroom上での個別対応を行います。

	書名	著書名	出版社名
教科書	なし		
参考書	①『はじめて出会う生命倫理』 ②『テーマで読み解く生命倫理』	①玉井真理子・大谷いづみ編 ②小泉博明・井上兼生・今村博幸・吉田修馬編著	①有斐閣アルマ ②教育出版
オフィスアワー	授業前後の休憩時間、メール・Google Classroomでの相談		

科目	教育学	単位・時間数	2単位・30時間
担当講師	井上 環	学 年	1年生 前期
実績経験	資格		
	教育学博士課程		

授業の位置づけ	<p>教育学のトピックについて概説します。対人的な営みであるリハビリには、相手に「教える」という働きかけが欠かせません。教育学を学ぶことは、そうしたコミュニケーションのあり方を磨くことに関わっています。同時にそれは、皆さん自身の日々の成長や学びを捉え直すことや、現代の社会や文化への理解を深めることにもつながっています。これらについて、この授業では講義とともに「哲学対話」と呼ばれる実践を重ねながら、共に考えていくことを目指します。</p>		
到達目標	<p>教育学に関わる重要な概念や論点を踏まえながら、自身の考えを深めそれを適切に表現することができる。 対話を通じた他者との協同的な探究に参加することができる。</p>		
授業形態	講義	遠隔授業とする可能性があります	

授業計画

回数	項目	講義内容
1回	ガイダンス	授業の概要・進め方・評価方法、教育学を学ぶ意義、哲学対話とは何か
2回	哲学対話 [1]	日常における問い
3回	教える-学ぶの関係	コミュニケーションとしての教えること、学びと教え
4回	教育工学	インストラクションデザイン
5回	哲学対話 [2]	教育をめぐる問い
6回	子ども	小さな大人としての「子ども」、「子ども」の発見、「子ども」の消失
7回	教育の目的	有能化・社会化・主体化
8回	哲学対話 [3]	教育をめぐる問い
9回	特別支援教育①	障害児教育の歴史とインクルーシブ教育
10回	特別支援教育②	発達障害のある子どもの教育
11回	ジェンダーとセクシュアリティ	ジェンダーと教育の課題、セクシュアリティと教育の課題
12回	哲学対話 [4]	教育をめぐる問い
13回	遊び	遊びと労働の関係、遊びをめぐる思想
14回	知	学校教育における知、共用財としての知識
15回	哲学対話 [5]	教育をめぐる問い

成績評価	①各講義に対するリアクションペーパーの提出状況 (40%) ②学期末レポートの評価 (60%)	受講上のルール・留意点	学期末レポートでは、それまでの授業で行われた議論を踏まえた上で、皆さん自身で自由に問いを設定しそれに応答してもらいます。分量は1,500~2,000字程度を予定しています。「リアクションペーパー」および「哲学対話」の位置づけ・留意点については授業内で説明します。また、各講義のテーマや哲学対話の進め方については、実際の授業の進行状況を見ながら修正を行っていく場合があります。
------	--	-------------	---

課題やレポートに関するフィードバック			
リアクションペーパーへのフィードバックは、授業内で全体に対し実施するとともに、必要に応じてGoogle Classroom上での個別対応を行います。			

教科書	書名 なし	著書名	出版社名
参考書	講義中に適宜指示します		
オフィスアワー	授業前後の休憩時間、メール・Google Classroomでの相談		

科目	情報科学		単位・時間数	1単位・ 30時間
担当講師	阿部 靖、坂本 聡、下村 周平、臼杵 寛		学 年	1年生 前期
実績経験	資格	実務経験21年（病院、老健、通所、訪問、予防事業等）の経験を踏まえ、実例を交えながら講義を行う。 実務経験：教育機関21年 小学生から高校生の指導で培った方法を教授する。 実務経験：21年 理学療法士として回復期病院、介護保険事業に携わった経験を教授する。 実務経験：14年 理学療法士として、回復期病院・訪問看護・デイサービスなどで治療を行ってきた実務経験を話し、実例を交えながら講義を行う。		
	学士、理学療法士			
授業の位置づけ	この授業では医学教育を学ぶ上での思考法と臨床推論、パーソナルコンピューターの技術を学び、学内授業と臨床実習で活用できることを目的とする。 医学は幅広い分野の知識と技術を必要とするため、学習法とIT技術の特徴を理解する必要がある。その知識と技術を用いて理学療法分野を理解することが求められる。 1～9回目はマインドマップを用いながら思考力を育成していく。 9回目以降では、今後の学生生活に必要なレポート作成や文献検索、情報管理スキル、プレゼンテーションスキルを身につけるため、講義や演習を行っていく。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・思考のメカニズムが理解でき、説明することができる。 ・思考法の育成方法を理解し、自ら実践できる。 ・理学療法士学生（以下PTS）に必要な、パソコンでのレポート作成や文献検索ができるようになる。 			
授業形態	講義・演習・実習		併用授業	

授業計画

回数	項目	講義内容
1回	臨床推論	思考の仕組み
2回	臨床推論	思考の仕組み
3回	臨床推論	思考法の種類
4回	臨床推論	思考法の種類
5回	臨床推論	思考力を育てる
6回	臨床推論	思考力を育てる
7回	臨床推論	情報の管理
8回	臨床推論	情報の管理
9回	情報処理	PTSに必要なパソコンスキルについて Word/Excel/PowerPoint演習
10回	情報処理	PTSに必要な情報管理スキルについて Word/Excel/PowerPoint演習
11回	情報処理	PTSに必要なプレゼンテーションスキルについて Word/Excel/PowerPoint演習
12回	課題発表	課題発表
13回	検索	情報、文献検索の仕方
14回	検索	情報、文献検索の仕方
15回	検索	課題発表

成績評価	課題：100%	受講上のルール・留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・各回、ノート作りを必須とします。 ・積み重ね学習を意識して参加してください。 ・9回目以降は、パソコンを使用した演習となります。学校から貸し出しも可能ですが、自分のパソコンを使用したい人は持参してください。
------	---------	-------------	--

課題やレポートに関するフィードバック

- ・マインドマップ関連の課題は、後日授業内またはメールにてフィードバックを行う。
- ・パソコン関連の課題は、後日授業内またはメールにてフィードバックを行う。

	書名	著書名	出版社名
教科書			
参考書			
オフィスアワー	阿部:メールでの連絡は随時可能 下村:メールでの連絡は随時可能	y-abe@nichireha.ac.jp s-shimomura@nichireha.ac.jp	

科目	自然科学	単位・時間数	2単位・ 30時間
担当講師	鈴木 忠幸	学 年	1年生
実績経験	資格		
	博士（理学）		
授業の位置づけ	1. 専門科目を理解するために必要な物理学の知識の習得する。 2. 現実の場面で科学的な物の見方ができるようになること。		
到達目標	力学を中心に理解する		
授業形態	講義	オンデマンド授業	

授業計画

回数	項目	講義内容
1回	物理量と単位	物理学で扱う量とその特徴, 単位
2回	力(1)	力の表示法, いろいろな力, 力の合成法とその応用
3回	力(2)	力の分解法とその応用, 力の例(牽引, 摩擦)
4回	力のモーメント(1)	力のモーメントとは, 応用(1)
5回	力のモーメント(2)	力のモーメントとは, 応用(2) (重心の求め方)
6回	安定・不安定	物体が倒れる条件, 安定状態の例, 人体の重心
7回	てこ	てこの種類と特徴
8回	生体内のてこ(1)	生体内に存在するてこ1(頭部, 肘関節部)
9回	生体内のてこ(2)	生体内に存在するてこ2(肩関節部, 膝関節部, 股関節部, 足関節部, 様々な姿勢でのてこ)
10回	生体内のてこ(3)	背中筋肉や腰にかかる力
11回	筋肉, 滑車, 輪軸	筋の収縮様式, 滑車の種類と特徴, 輪軸の特徴
12回	物体の運動(1)	位置と変位, 速度, 加速度
13回	物体の運動(2)	運動の三法則, 仕事, 仕事率(並進運動)
14回	物体の運動(3)	仕事率(回転運動), 力学的エネルギー
15回	物体の運動(4)	運動量と撃力

成績評価	筆記試験100%	受講上のルール・留意点	毎回課題提出にて出欠を確認(Google Classroom)
------	----------	-------------	---------------------------------

課題やレポートに関するフィードバック

毎回の授業にて課題を提出

	書名	著者名	出版社名
教科書	なし		
参考書	PT・OTゼロからの物理学 PT・OT・PO身体運動の理解につなげる物理学	望月久, 棚橋伸雄 江原義弘, 山本澄子, 中川昭夫	羊土社 南江堂
オフィスアワー	質問があれば教務課に連絡してください		

科目	保健体育	単位・時間数	2単位・30時間
担当講師	小平 健太郎	学年	1年生 後期
実績経験	資格	運動と健康に関わる現実的課題に対して、これまでトレーニングコーチとして運動選手から一般の方への運動指導経験を講義に反映して展開する。保健医療（理学療法・作業療法、看護、臨床検査、鍼灸理療、柔道整復等）部門で生理学授業を担当している教員が医療従事者に必要な生体機能の調節機構について日常生活からの視点を例示しながら講義を実施する。	
	NSCA-CSCS, NSCA-CPT, 体育学修士		
授業の位置づけ	運動の重要性は近年特に叫ばれているが、方法によっては逆効果にもなるリスクも潜んでいるため対象者に合わせた適切な方法を体験だけでなく知見として習得していくことが専門職としても求められる。また、自身の動作での課題の発見や適した改善を図ることは自身の健康を保つためにも必要である。 講義における基礎知識の習得だけでなく演習やグループディスカッションを通じて、多方面から運動や動作について考える時間を設ける。		
到達目標	①動作改善演習を通じて改善のための選択手段を説明できる。 ②感覚に制限がある場合の運動感覚、運動指導について体験を通して説明できる。 ③様々なトレーニングの方法、コンディショニングを維持する方法について説明できる ④障がい者スポーツの起源や内容について理解する ⑤体育・スポーツに関連する課題を説明できる		
授業形態	講義・演習	対面と遠隔の併用授業	

授業計画

回数	項目	講義内容
1回	運動のリスク①	運動にまつわるリスク：内科的疾患
2回	運動のリスク②	運動にまつわるリスク：外傷、障害
3回	動作改善演習①	柔軟性・可動性改善演習①
4回	動作改善演習②	柔軟性・可動性改善演習②：①を踏まえてのグループワーク
5回	障がい者スポーツ①	障がい者スポーツの歴史、競技の理解
6回	障がい者スポーツ②	障がい者スポーツの疑似体験
7回	動作改善演習③	トレーニングフォーム、動作改善演習①：自体重での運動
8回	動作改善演習④	トレーニングフォーム、動作改善演習②：①を踏まえてのグループワーク
9回	睡眠のメカニズム	睡眠のメカニズム、心身に与える影響
10回	嗜好品の影響	嗜好品がもたらす影響
11回	コンディショニング①	ウォーミングアップの作成
12回	コンディショニング②	クールダウン、リカバリーの作成
13回	アンチ・ドーピング	アンチ・ドーピングへの理解
14回	スポーツ全般	スポーツについて改めて考える：スポーツの位置づけ、捉え方
15回	総合演習	運動が身体にもたらす影響についてのまとめ

成績評価	レポート試験：70%、講義内課題30%の合計100%で評価する。 授業時間数の3分の1以上欠席した者には単位を与えない。	受講上のルール・留意点	講義を踏まえて運動が身体にもたらす影響について総合的に考察したものを課題として出題する。 講義内では授業課題に沿った課題を出題する。
------	---	-------------	---

課題やレポートに関するフィードバック

FBは全体に対して実施する

	書名	著書名	出版社名
教科書			
参考書			
オフィスアワー	授業前後の休憩時間		

科目	人間関係学	単位・時間数	1単位・ 30時間
担当講師	阿部 靖、坂本 聡	学 年	1年生 前期
実績経験	資格	実務経験：教育機関21年 小学生から高校生の指導で培った方法を教授する。：21年 理学療法士として救急病院、クリニック、地域医療に携わった経験を教授する。	
	学士、理学療法士		
授業の位置づけ	この授業では医学教育を学ぶ上での思考法と臨床推論の基礎を学び、学内授業と臨床実習で活用できることを目的とする。 医学は幅広い分野の知識と技術を必要とするため、学習法の特徴を理解する必要がある。その知識と技術を用いて理学療法分野を理解することが求められる。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・思考のメカニズムが理解でき、説明することができる。 ・思考法の育成方法を理解し、自ら実践できる。 		
授業形態	講義・演習・実習	併用授業	

授業計画

回数	項目	講義内容
1回	関係性の構築	関係性について、関係性を構築する
2回	関係性の構築	関係性について、関係性を構築する
3回	関係性の構築	関係性について、関係性を構築する
4回	思考法について	関係性について、関係性を構築する
5回	思考法について	関係性について、関係性を構築する
6回	思考法について	関係性について、関係性を構築する
7回	思考法について	理解力、学力の構築
8回	思考法について	理解力、学力の構築
9回	思考法について	理解力、学力の構築
10回	思考法について	理解力、学力の構築
11回	思考法について	理解力、学力の構築
12回	思考法について	理解力、学力の構築
13回	臨床推論	思考力について
14回	臨床推論	思考力の育成
15回	臨床推論	プレゼンテーション

成績評価	出席40点 (1回欠席でマイナス6点)、 グループ発表20点 個人発表20点 試験20点	受講上のルール・留意点	時間管理を徹底すること。 体調管理を徹底すること。 主体性を持って参加すること。
------	--	-------------	--

課題やレポートに関するフィードバック

・後日授業内またはメールにてフィードバックを行う。

	書名	著書名	出版社名
教科書			
参考書			
オフィスアワー	阿部:メールでの連絡は随時可能 y-abe@nichireha.ac.jp		

科目	解剖学 I		単位・時間数	1単位・30時間
担当講師	羽原 弦史		学年	1年生 前期
実績経歴	資格			
	獣医師・医学（博士）			
授業の位置づけ	人体の構造を理解する。			
到達目標	骨格、関節、筋肉の構造を理解するとともに解剖学用語を習得する。			
授業形態	講義		対面場合によってはオンデマンド	

授業計画

回数	項目	講義内容
1回	解剖学総論I	系統解剖学とは。組織学総論。
2回	解剖学総論II	組織学各論。骨組織と筋肉組織。
3回	骨学総論	骨と関節の構造と種類。骨の連結。
4回	骨学各論	頭蓋骨構成骨と特殊構造。
5回		脊柱。構成区分と連結。
6回		胸郭。全体の構成。構成骨とその連結。
7回		骨盤。特殊形態と構成。
8回		上肢骨。上肢帯と上肢骨。
9回		上肢骨。自由上肢骨の連結。筋肉付着部の形態。
10回		手骨。特殊形態と連結。
11回		下肢骨。下肢帯との連結。
12回		下肢骨。自由下肢骨の連結構造。
13回		下肢骨。自由下肢骨の連結構造。
14回		筋肉学総論。筋肉の種類と形態
15回		頭部の筋と支配神経

成績評価	定期試験	受講上のルール・留意点	授業時間数の3分の1を超えて欠席した者には単位を与えない
------	------	-------------	------------------------------

課題やレポートに関するフィードバック	

	書名	著書名	出版社名
教科書	標準理学療法学・作業療法学 解剖学		医学書院
参考書			
オフィスアワー			

科目	解剖学Ⅱ		単位・時間数	1単位・30時間
担当講師	羽原 弦史		学年	1年生 前期
実績経験	資格			
	獣医師・医学（博士）			
授業の位置づけ	人体の構造を理解する。			
到達目標	骨格、関節、筋肉の構造を理解するとともに解剖学用語を習得する。			
授業形態	講義	対面場合によってはオンデマンド		

授業計画

回数	項目	講義内容
1回	筋肉学各論	頸部の筋、作用と支配神経
2回		胸部の筋、作用と支配神経
3回		＃
4回		腹部の筋、作用と支配神経
5回		＃
6回		背部の筋作用と支配神経
7回		＃
8回		上肢の筋、上肢帯の筋
9回		上腕から前腕の筋
10回		＃
11回		手の筋
12回		下肢帯の筋、下肢帯から大腿の筋
13回		下肢の筋、下腿から足の筋
14回	内臓学総論	内臓の分類と構造。循環器系総論。
15回	循環器系	循環路と特殊循環。

成績評価	定期試験	受講上のルール・留意点	授業時間数の3分の1を超えて欠席した者には単位を与えない
------	------	-------------	------------------------------

課題やレポートに関するフィードバック	

	書名	著書名	出版社名
教科書	標準理学療法学・作業療法学 解剖学		医学書院
参考書			
オフィスアワー			

科目	解剖学Ⅲ	単位・時間数	1単位・30時間
担当講師	羽原 弦史	学年	1年生 後期
実績経験	資格		
	獣医師・医学（博士）		
授業の位置づけ	人体の構造を理解する。		
到達目標	骨格、関節、筋肉の構造を理解するとともに解剖学用語を習得する。		
授業形態	講義	対面場合によってはオンデマンド	

授業計画

回数	項目	講義内容
1回	循環器系各論	心臓の構造と機能。
2回		動脈系
3回		静脈系
4回		リンパ系。リンパ管とリンパ節。脾臓の構造と機能。
5回	呼吸器系各論	鼻腔の構造と機能。上部気道。
6回		気管、気管支と肺
7回	消化器系各論	口腔内の特殊構造と咽頭
8回		消化管の構造
9回		消化腺の構造と機能
10回	泌尿器系各論	尿路と腎臓の位置と構造
11回		尿路の構造。尿管と膀胱、尿道。
12回	生殖器系各論	男性生殖器の構造と機能
13回		女性生殖器の構造と機能
14回	内分泌系各論	体内の内分泌腺の位置と構造
15回		内分泌腺と分泌ホルモン

成績評価	定期試験	受講上のルール・留意点	授業時間数の3分の1を超えて欠席した者には単位を与えない
------	------	-------------	------------------------------

課題やレポートに関するフィードバック	

	書名	著書名	出版社名
教科書	標準理学療法学・作業療法学 解剖学		医学書院
参考書			
オフィスアワー			

科目	解剖学実習	単位・時間数	1単位・30時間
担当講師	外部講師	学年	1年生 後期
実績経験	資格		
授業の位置づけ	人体の基本的構造・機能について理解する。本講義では特に神経系・感覚器について学ぶ。		
到達目標	神経系・感覚器について基本的構造と機能について説明できる。		
授業形態	講義	併用授業	

授業計画

回数	項目	講義内容
1回	神経系総論1	神経系の組織学・神経系の肉眼的区分
2回	神経系総論2	髄膜と脳室系、神経系の発生
3回	中枢神経系1	脊髄
4回	中枢神経系2	脳幹（延髄、橋、中脳）
5回	中枢神経系3	小脳
6回	中枢神経系4	大脳（1）間脳、終脳
7回	中枢神経系5	大脳（2）大脳皮質の局在性
8回	神経路	上行性、下行性
9回	末梢神経系1	脊髄神経（頸神経叢、腕神経叢、胸神経）
10回	末梢神経系2	脊髄神経（腰神経叢、仙骨神経叢）
11回	末梢神経系3	脳神経（I～VI）
12回	末梢神経系4	脳神経（VII～XII）
13回	末梢神経系5	自律神経系
14回	感覚器1	皮膚、視覚
15回	感覚器2	聴覚、平衡覚、味覚、嗅覚

成績評価	定期試験	受講上のルール・留意点	授業時間数の3分の1以上欠席した者には単位を与えない
------	------	-------------	----------------------------

課題やレポートに関するフィードバック	
必要があればコメントする	

	書名	著書名	出版社名
教科書	標準理学療法学・作業療法学 解剖学	編集 野村 巖	医学書院
参考書			
オフィスアワー	授業前後の休憩時間		

科目	機能解剖学 I	単位・時間数	1 単位・ 30 時間
担当講師	村井 敦士 石垣 栄司 塩澤 和人	学 年	1 年生 前期
実績経験	資格	村井：1992年理学療法士免許取得 経験年数30年。 10年病院勤務後、はり灸あん摩マッサージの免許を取得。 治療院開業後、2015年から教員勤務。	
	理学療法士 はり師・灸師・あん摩マッサージ指圧師		

授業の位置づけ	<ul style="list-style-type: none"> ・将来、理学療法士として働くうえで、筋骨格を理解する必要性は極めて高いです。2次元でとらえがちな解剖学を、骨指標を基に3次元で捉え、実際に確認していきます。主に体表解剖および筋の起始・停止・走行を確認する。 ・講義は2~3人一組で実技を行う。 		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・講義を通して筋肉の起始・停止を理解できるようにする。その中で3次的に筋肉がどのように走向しているかを学んでいく。 		
授業形態	講義・実習		

授業計画

回数	項目	講義内容
1回	総論	触察の方法と注意
2回	肩甲骨の講義・演習	肩甲骨の触察
3回	小円筋の講義・演習	小円筋の触察
4回	棘下筋の講義・演習	棘下筋の触察
5回	大円筋の講義・演習	大円筋の触察
6回	三角筋の講義・演習	三角筋後部線維の触察
7回	上腕三頭筋の講義・演習	上腕三頭筋長頭の触察
8回	胸郭の講義・演習	棘突起・肋骨の触察
9回	菱形筋の講義・演習	大・小菱形筋の触察
10回	肩甲挙筋の講義・演習	肩甲挙筋の触察
11回	僧帽筋の講義・演習	僧帽筋上部線維の触察
12回		僧帽筋中・下部線維の触察
13回	大胸筋の講義・演習	大胸筋鎖骨部の触察
14回	上腕二頭筋の講義・演習	上腕二頭筋の触察
15回	前腕筋の講義・演習	前腕筋の触察

成績評価	筆記試験60%、実技試験40%	受講上のルール・留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・講義時間数の1/3以上欠席した者には単位を与えない。 ・講義はジャージ等の動きやすい服装で出席する。デニム、チノパン等で参加した場合は減点とする。また、指輪、ピアス、時計等のアクセサリをつけていた場合も減点とする（結婚指輪は良い）。
------	-----------------	-------------	--

課題やレポートに関するフィードバック

フィードバックは全体に実施する。

	書名	著書名	出版社名
教科書	マイオチューニングアプローチ入門 痛みと麻痺に対する治療の手技	高田 治実	協同医書出版社
	最新カラーリングブック 筋骨格系の解剖学	ジョセフ・E・マスコーリノ 高田 治実	産調出版
オフィスアワー	授業前後の休憩時間		

科目	機能解剖学Ⅱ	単位・時間数	1単位・30時間
担当講師	村井 敦士 石垣 栄司 塩澤 和人	学 年	1年生 後期
実績経験	資格	村井：1992年理学療法士免許取得 経験年数30年。 10年病院勤務後、はり灸あん摩マッサージの免許を取得。 治療院開業後、2015年から教員勤務。	
	理学療法士 はり師・灸師・あん摩マッサージ指圧師		
授業の位置づけ	<ul style="list-style-type: none"> ・将来、理学療法士として働くうえで、筋骨格を理解する必要性は極めて高いです。2次元でとらえがちな解剖学を、骨指標を基に3次元で捉え、実際に確認していきます。主に体表解剖および筋の起始・停止・走行を確認する。 ・講義は2～3人一組で実技を行う。 		
到達目標	講義を通して筋肉の起始・停止を理解できるようにする。その中で3次的に筋肉がどのように走向しているかを学んでいく。		
授業形態	講義・実習		

授業計画

回数	項目	講義内容
1回	肩甲骨・骨盤の講義・演習	肩甲骨・骨盤の触察
2回	骨盤・大転子の講義・演習	骨盤・大転子の触察
3回	広背筋の講義・演習	広背筋の触察
4回	腰方形筋の講義・演習	腰方形筋の触察
5回	大殿筋の講義・演習	大殿筋の触察
6回	中殿筋の講義・演習	中殿筋の触察
7回	梨状筋講義・演習	梨状筋の触察
8回	半腱様筋の講義・演習	半腱様筋の触察
9回	半膜様筋の講義・演習	半膜様筋の触察
10回	大腿二頭筋の講義・演習	大腿二頭筋の触察
11回	大腿筋膜張筋の講義・演習	大腿筋膜張筋の触察
12回	縫工筋の講義・演習	縫工筋の触察
13回	大腿直筋の講義・演習	大腿直筋の触察
14回	前脛骨筋講義・演習	前脛骨筋の触察
15回	下腿三頭筋講義・演習	下腿三頭筋の触察

成績評価	筆記試験60%、実技試験40%	受講上のルール・留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・講義時間数の1/3以上欠席した者には単位を与えない。 ・講義はジャージ等の動きやすい服装で出席する。デニム、チノパン等で参加した場合は減点とする。 また、指輪、ピアス、時計等のアクセサリーをつけていた場合も減点とする（結婚指輪は良い）。
------	-----------------	-------------	---

課題やレポートに関するフィードバック

フィードバックは全体に実施する。

	書名	著書名	出版社名
教科書	マイオチューニングアプローチ入門 痛みと麻痺に対する治療の手技	高田 治実	協同医書出版社
	最新カラーリングブック 筋骨格系の解剖学	ジョセフ・E・マスコリーノ 高田 治実	産調出版
オフィスアワー	授業前後の休憩時間		

科目	生理学Ⅰ	単位・時間数	1単位・30時間
担当講師	黒澤 美枝子	学年	1年生 前期
実績経験	資格	生理学の研究経験と、大学において理学療法学科の生理学講義と生理学実習を26年間担当してきた教育経験とを活かし、わかりやすく、しかも理学療法士の基礎知識として将来役立つ講義を目指したいと思います。	
	大学教員		

授業の位置づけ	教科書の内容に沿って講義します。生理学Ⅰで学ぶ「神経系（神経系一般、運動、自律神経系、感覚）」は、生理学の他分野の消化器や泌尿器などと違いイメージしづらく、初めて生理学を学ぶ者にとっては、理解が難しい内容も多く含まれると思います。しかし、国家試験で出題される頻度が高く、また、ほかの教科との関連も深い分野となります。そのため、生理学全体のなかで多くの時間をこの神経系にとり、一つ一つ丁寧に解説していきたいと思います。		
到達目標	人体の生理機能のうち、動物機能（神経系・筋・運動・感覚）について理解し、基礎知識を身につける。		
授業形態	講義	主に遠隔授業 (場合により対面と遠隔の併用授業)	

授業計画

回数	項目	講義内容
1回	総論	身体の成り立ち、生体恒常性、細胞、物質代謝
2回	神経系一般（1）	神経系の分類、ニューロンの機能（膜電位）
3回	神経系一般（2）	ニューロンの機能（活動電位の発生と伝導、シナプス伝達）
4回	神経系一般（3）	ニューロンの機能（シナプス伝達の可塑性）、中枢神経機能概論
5回	筋	骨格筋の構造と働き、筋の収縮の仕組み、筋のエネルギー供給の仕組み
6回	運動（1）	骨格筋の神経支配、運動単位
7回	運動（2）	運動反射（1）
8回	運動（3）	運動反射（2）
9回	運動（4）	運動の調節（脳幹、小脳、大脳基底核、大脳皮質）
10回	自律神経系（1）	自律神経系一般、自律神経による調節の特徴
11回	自律神経系（2）	自律神経系の中樞、反射
12回	感覚（1）	感覚一般、体性感覚（1）
13回	感覚（2）	体性感覚（2）、特殊感覚（1）
14回	感覚（3）	特殊感覚（2）
15回	総復習	これまでのまとめ、定期試験について

成績評価	①講義毎に実施する課題 (小テストなど) 40% ②定期試験 60%	受講上のルール・留意点	①毎回講義の最後に課題を出し、講義時間内で実施し、提出していただきます（授業の進み具合によって変更あり）。 ②すべての講義終了後に定期試験を実施します。また、授業時間数の3分の1以上欠席した者には単位を与えることはできません。
------	--	-------------	--

課題やレポートに関するフィードバック	
FBは講義内で全体に実施する。	

	書名	著書名	出版社名
教科書	生理学第3版	内田さえ・原田玲子ほか	医歯薬出版
参考書			
オフィスアワー	授業前後の休憩時間		

科目	生理学Ⅱ	単位・時間数	1単位・30時間
担当講師	黒澤 美枝子	学年	1年生 前期
実績経験	資格	生理学の研究経験と、大学において理学療法学科の生理学講義と生理学実習を26年間担当してきた教育経験とを活かし、わかりやすく、しかも理学療法士の基礎知識として将来役立つ講義を目指したいと思います。	
	大学教員		
授業の位置づけ	教科書の内容に沿って講義します。生理学Ⅱでは植物機能全般（血液・循環・生体の防御・呼吸・消化と吸収・栄養代謝・体温・排泄・内分泌・生殖）を学びます。生理学Ⅱでは生理学Ⅰで勉強した「神経系」が各機能の調節として再び出てきます。範囲が広い分1回の授業で実施する容量も多いです。そのため、各分野で特に重要な点を中心に解説していきたいと思っています。生理学Ⅰと生理学Ⅱで教科書1冊を学び終えます。		
到達目標	人体の生理機能のうち、植物機能（血液・循環・生体の防御・呼吸・消化と吸収・栄養代謝・体温・排泄・内分泌・生殖）について理解し、基礎知識を身につける。		
授業形態	講義	主に遠隔授業 (場合により対面と遠隔の併用授業)	

授業計画

回数	項目	講義内容
1回	血液・免疫	血液の組成と働き、血球の生成・分化、止血作用
2回	循環（1）	心血管系、心臓の構造と機能
3回	循環（2）	血液循環、循環の調節
4回	生体の防御機構	白血球の機能、自然免疫、獲得免疫
5回	呼吸	呼吸器系、ガス交換と運搬、呼吸運動とその調節
6回	消化と吸収（1）	消化管の運動、排便
7回	消化と吸収（2）	消化液の分泌、栄養素の吸収、肝臓の働き
8回	栄養・代謝（1）	肝臓の働き、栄養素の働きと代謝（1）
9回	栄養・代謝（2）、体温	栄養素の働きと代謝（2）、体温調節
10回	排泄	腎臓の尿生成機構、蓄尿と排尿
11回	内分泌（1）	ホルモンの分類、特徴
12回	内分泌（2）	各ホルモンの種類とその働き（1）
13回	内分泌（3）	各ホルモンの種類とその働き（2）
14回	生殖・成長と老化	男性・女性生殖器の働き、妊娠と出産、成長と老化
15回	総復習	これまでのまとめ、定期試験について

成績評価	①講義毎に実施する課題 (小テストなど) 40% ②定期試験 60%	受講上のルール・留意点	①毎回講義の最後に課題を出し、講義時間内で実施し、提出していただきます（授業の進み具合によって変更あり）。 ②すべての講義終了後に定期試験を実施します。また、授業時間数の3分の1以上欠席した者には単位を与えることはできません。
------	--	-------------	--

課題やレポートに関するフィードバック

FBは講義内で全体に実施します。

教科書	書名 生理学第3版	著書名 内田さえ・原田玲子ほか	出版社名 医歯薬出版
参考書			
オフィスアワー	授業前後の休憩時間		

科目	生理学Ⅲ	単位・時間数	1単位・30時間
担当講師	小平 健太郎	学 年	1年生 後期
実績経験	資格	運動と健康に関わる現実的課題に対して、これまでトレーニングコーチとして運動選手から一般の方への運動指導経験を講義に反映して展開する。保健医療（理学療法・作業療法、看護、臨書検査、鍼灸理療、柔道整復 等）部門で生理学授業を担当している教員が医療従事者に必須な生体機能の調節機構について日常生活からの視点を例示しながら講義を実施する。	
	NSCA-CSCS, NSCA-CPT, 体育学修士		
授業の位置づけ	<p>少子高齢化、健康長寿は今後ますます重要になる課題である。運動が身体にもたらす好影響は挙げられているが、適切なものでなくては逆効果にもなってしまうリスクも持っている。運動時の反応や調節作用を理解することで適切に運動を活用することができる。生理学Ⅰ、Ⅱの内容をベースに運動時にみられる調節反応を説明し、演習や動画教材も活用して解説する。</p> <p>講義ならびに、演習・グループワークを併用して実施する。</p>		
到達目標	<p>①筋収縮に伴うエネルギー代謝を説明できる、②運動に伴う呼吸循環系の適応を説明できる ③筋力発揮に影響を与える要因について説明できる、④運動刺激に応じた内分泌調節を説明できる ⑤環境が運動に与える影響を説明できる、⑥運動と発育発達、加齢老化について説明できる ⑦目的に応じた運動処方概要を説明できる</p>		
授業形態	講義・演習	対面と遠隔の併用授業	

授業計画

回数	項目	講義内容
1回	運動の必要性、体力	運動に求められているもの、体力要素の分類
2回	エネルギー供給系①	筋収縮とエネルギー供給経路
3回	エネルギー供給系②	エネルギー基質の回復、運動と栄養
4回	運動と呼吸循環系	運動に伴う呼吸循環系の調節・適応
5回	運動処方①	呼吸循環、エネルギー代謝からの運動処方
6回	運動と筋力①	筋力発揮に影響を与える要因
7回	運動と筋力②	運動単位、反射、脳の運動調節
8回	運動と内分泌①	運動刺激と内分泌応答
9回	運動と内分泌②	内分泌と糖代謝
10回	運動処方②	筋力トレーニングの運動処方
11回	運動と環境	高地、水中、暑熱・寒冷環境への応答
12回	運動と発育発達	発育・発達に伴う運動機能の変化
13回	運動と加齢老化	加齢・老化に伴う運動機能の変化
14回	運動処方③	目的、対象に合わせた運動処方の立案、評価
15回	運動生理学総論	これまでの講義を踏まえての総合考察

成績評価	試験：85%、講義内小テスト15%の合計100%で評価する。 授業時間数の3分の1以上欠席した者には単位を与えない。	受講上のルール・留意点	試験、小テストともに記述式・選択式の併用で基本事項を踏まえたものを出題する。小テストは5回実施する。
------	---	-------------	--

課題やレポートに関するフィードバック

FBは全体に対して実施する

	書名	著書名	出版社名
教科書	入門運動生理学第4版	勝田茂 編著	杏林書院
参考書			
オフィスアワー	授業前後の休憩時間		

科目	生理学実習		単位・時間数	1単位・30時間
担当講師	飯村 佳織		学年	1年生 後期
実績経験	資格	生理学の研究者（専門家）としての経験と、教育機関における非常勤講師としての経験を活かし、ヒトに備わった生理機能について理解が深まるよう実習を行います。		
	はり師、きゅう師			
授業の位置づけ	生理学実習はグループ学習が基本となります。ヒトの生理機能の基本となる、血圧や心拍、心電図、皮膚感覚、筋電図について、安静時の状態や、どのような状況（刺激）によりどのような変動を示すのかを実際に自身の体で測定してもらい、さらにグループ内で比較することで個体差についても観察します。測定機器の操作を習得することや生理機能の変化を体験すること、さらに実施した内容をレポートとして文章と図でまとめることで、生理学で学んだ内容の理解をより深めることが本実習の目的です。			
到達目標	人体の生理機能についての理解を深める			
授業形態	対面授業			

授業計画

回数	項目	講義内容
1回	実習の一般的解説	生理学実習における注意事項、授業の進め方の解説
2回	実習①～③の解説	実習内容の予習
3回	①血圧と心拍数-1	血圧と心拍を測定し、安静時および体位変換の影響を理解する
4回		
5回	②血圧と心拍数-2	血圧と心拍を測定し、運動負荷と寒冷負荷の影響を理解する
6回		
7回	③心電図	心電図を記録し、深呼吸や精神負荷の影響を理解する
8回		
9回	実習内容のまとめ又は発表会	実習内容をまとめる、または、グループで実習①～③についてプレゼンテーションを実施する（社会状況により変更有）
10回	実習④、⑤の解説	実習内容の予習
11回	④皮膚感覚	各皮膚部位による感覚点の測定を実施し、皮膚部位による感覚点の分布の違いや、冷却が皮膚感覚に及ぼす影響を理解する
12回		
13回	⑤随意運動と表面筋電図	筋電図を記録し、安静時や運動時の屈筋と伸筋の働きを理解する
14回		
15回	生理学の講義又は発表会	グループで実施した実習内容についてプレゼンテーションを実施する（社会状況により変更有）または、生理学の最新の知見について講義する。

成績評価	<ul style="list-style-type: none"> 各実習レポート 90% 発表会やその他の提出物 10% 	受講上のルール・留意点	<p>毎実習ごとに各自レポートを作成し、次週の授業開始時に提出していただきます。また、授業時間数の3分の1以上欠席した者には単位を与えることはできません。</p>
------	--	-------------	---

課題やレポートに関するフィードバック

FBは講義内で全体に実施します。

	書名	著書名	出版社名
教科書	生理学実習NAVI 第2版	大橋敦子	医歯薬出版
参考書	生理学第3版	内田さえ・原田玲子ほか	医歯薬出版
オフィスアワー	授業前後の休憩時間		

科目	運動学Ⅰ		単位・時間数	1単位・30時間
担当講師	塚本 奈々子、鍋城 武志、白杵 寛		学年	1年生 後期
実績経験	資格	塚本（実務経験18年）：理学療法士として、総合病院、訪問リハ、デイケア、教育機関に勤務。実務経験を活かし、実例を交えながら講義を行う。 鍋城（実務経験20年）：理学療法士として、急性期病院、教育機関に常勤として勤務。実務経験を活かし実例を交えながら講義を行う。 白杵（実務経験21年）：病院、老健、通所、訪問、予防事業等の経験を踏まえ、実例を交えながら講義を行う。		
	理学療法士			
授業の位置づけ	運動学とは身体運動の仕組みに関する学問であり、運動障害を治療対象とする理学療法士にとって、その理論的基礎をなす重要な科目である。正常な運動とその仕組みに関する基礎知識を身につけるために、力学原理に基づく運動の記述と解釈、上肢の筋骨格系の構造・機能と関節運動の関係を中心に学習する。			
到達目標	身体運動における運動学的分析、運動力学的分析を理解する 上肢の筋骨格系の基本構造を理解する			
授業形態	講義・演習		併用授業	

授業計画

回数	項目	講義内容
1回	運動学とは	運動学とは、運動学の歴史
2回	運動学に必要な基礎知識	骨の構造と機能
3回		骨の構造と機能
4回		関節の構造と機能
5回		筋の構造と機能
6回		神経系の構造と機能
7回		身体運動の基本
8回		姿勢、体幹の動き
9回		上肢帯と上肢の運動
10回	肩関節の運動	肩関節の構造と機能
11回		肩関節の構造と機能
12回	肘と前腕の運動	肘関節の構造と機能
13回		肘関節の構造と機能
14回	手関節の手指の運動	手関節の構造と機能
15回		手関節の構造と機能

成績評価	筆記試験（100%）	受講上のルール・留意点	専門用語が多いため、講義で理解できない点については早めに質問に来てください。
------	------------	-------------	--

課題やレポートに関するフィードバック

フィードバックは全体に実施する

	書名	著書名	出版社名
教科書	基礎運動学 第6版	中村隆一 他	医歯薬出版
参考書	プロメテウス 解剖学アトラス 解剖学総論／運動器系	坂井建雄 松村諷児 監訳	医学書院
	15レクチャーシリーズ理学療法・作業療法テキスト 運動学	石川朗 種村留美 編集	中山書店
オフィスアワー	担当授業の前後		

科目	運動学Ⅱ		単位・時間数	1単位・30時間
担当講師	塚本 奈々子、鍋城 武志、白杵 寛		学年	1年生 前期
実績経験	資格	塚本（実務経験18年）：理学療法士として、総合病院、訪問リハ、デイケア、教育機関に勤務。実務経験を活かし、実例を交えながら講義を行う。 鍋城（実務経験20年）：理学療法士として、急性期病院、教育機関に常勤として勤務。実務経験を活かし実例を交えながら講義を行う。 白杵（実務経験21年）：病院、老健、通所、訪問、予防事業等の経験を踏まえ、実例を交えながら講義を行う。		
	理学療法士			
授業の位置づけ	運動学とは身体運動の仕組みに関する学問であり、運動障害を治療対象とする理学療法士にとって、その理論的基礎をなす重要な科目である。正常な運動とその仕組みに関する基礎知識を身につけるために、下肢及び体幹・頭頸部の筋骨格系の構造・機能と関節運動の関係を中心に学習する。また、運動学Ⅱでは特に歩行のメカニズムについて学習する。			
到達目標	下肢及び体幹・頭頸部の筋骨格系の基本構造を理解する 歩行分析に必要な基礎知識について理解する			
授業形態	講義・演習		登校	

授業計画

回数	項目	講義内容
1回	下肢総論	
2回	下肢の構造と機能と運動	股関節の構造と機能と運動
3回		股関節の構造と機能と運動
4回		股関節の構造と機能と運動
5回		膝関節の構造と機能と運動
6回		膝関節の構造と機能と運動
7回		足関節の構造と機能と運動
8回		足関節の構造と機能と運動
9回		顔面の構造と機能
10回	脊椎の構造と機能と運動	頸椎の構造と機能と運動
11回		胸椎の構造と機能と運動
12回		腰椎の構造と機能と運動
13回	歩行について	歩行周期について
14回		歩行時の関節運動、筋活動
15回		歩行時の関節運動、筋活動

成績評価	筆記試験（100%）	受講上のルール・留意点	専門用語が多いため、講義で理解できない点については早めに質問に来てください。
------	------------	-------------	--

課題やレポートに関するフィードバック

フィードバックは全体に実施する

	書名	著書名	出版社名
教科書	基礎運動学 第6版	中村隆一 他	医歯薬出版
参考書	プロメテウス 解剖学アトラス 解剖学総論／運動器系	坂井建雄 松村諒児 監訳	医学書院
	15レクチャーシリーズ理学療法・作業療法テキスト 運動学	石川朗 種村留美 編集	中山書店
オフィスアワー	質問は基本的に対面で、授業前後に声をかけてください。		

科 目	人間発達学	単位・時間数	1単位・30時間
担当講師	黒木 光	学 年	1年生 後期
実績経験	資格	実務経験 20年 理学療法士として、総合病院・整形外科クリニック・老健・訪問リハ・デイケア・放課後デイ・教育機関にて積極的に治療を行ってきた実務経験を活かし、実例を交えながら講義を行う。	
	理学療法士		
授業の位置づけ	この授業では人間の一生における発達を、身体的・精神的・社会的な視点からその特徴を説明し、自身や他人の思考や行動を通して理解を深める。幅広い世代で医療を実践するために、各年代での機能の特徴を理解し、行動を実践するためのプロフェッショナルな視点について解説する。乳児の運動・行動を学びながら、人間の観察力を高め、専門的な技術の基礎を作る。 授業方法は講義が80%、演習が20%である。		
到達目標	人間の発達の年代ごとの特徴を幅広い視点から捉え、説明することができる。 乳幼児期の反射・反応の意義を理解し、説明することができる。 運動発達の変化が著しい乳幼児期の運動発達を理解し、説明することができる。		
授業形態	講義・演習	併用授業	

授業計画

回数	項目	講義内容
1回	発達の概念	発達期の区分、発育曲線、発達の原則、運動発達
2回	発達理論	発達理論（エリクソン、ピアジェ、フロイト、その他）
3回	胎児・新生児期	胎児・新生児の発達、評価
4回	乳児期	発達、反射・反応、発達の評価
5回	幼児期	発達、反射・反応、社会的な発達
6回	運動発達	0～3か月までの運動発達について
7回	運動発達	4～6か月までの運動発達について
8回	運動発達	7～9か月までの運動発達について
9回	運動発達	10～18か月までの運動発達について
10回	学童期の発達	親から友人へ、学校生活への移行
11回	青年期の発達	第二次性徴、脳の発達と行動
12回	成人期の発達	生活の変化、ストレス、メタボリックシンドローム
13回	老年期の発達	老化による機能低下、生きがい
14回	感覚系の発達	感覚系・言語・生活動作
15回	運動系の発達	乳幼児期の運動発達のまとめ

成績評価	定期試験：筆記試験60% 小テスト35% レポート課題10% 授業時間数の3分の1以上 欠席した者は試験は受験させず、単位を与えない	受講上のルール 留意点	授業では毎回課題を出しますので、必ず次週の授業前までに提出すること。 演習（実技）では動きやすい服装（基本は短パン、Tシャツ）の準備をすること。
------	--	----------------	---

課題やレポートに関するフィードバック

毎回、授業の疑問点について、確認シートを作成する。それに対するフィードバック（FB）を毎回おこなう。

	書名	著書名	出版社名
教科書	イラストでわかる人間発達学	上杉 雅之	医歯薬
参考書			
オフィスアワー	メールでの連絡は随時 h-kuroki@nichireha.ac.jp		

科 目	リハビリテーション医学概論 I	単 位・時間数	2 単 位・30 時間
担当講師	草野 修輔、工藤 征四郎、佐々木 和裕	学 年	1 年、前期

教育目標	リハビリテーション医学概論に関する基本的知識を習得する。
教育内容	リハビリテーション医学基礎知識とリハビリテーション発展の歴史・現状・課題並びにリハビリテーション主要分野の概要等について知識の修得。更には、リハビリテーションと深い関連を有する福祉・医療・保健等について知識の修得。

講義内容

回数	項 目	講 義 内 容	担当
1回	①リハビリテーションという用語の意味の変遷	中世及び近世ヨーロッパと現代のリハビリテーションという用語の意味の違い	工藤
	②リハビリテーションの定義に関する こと及びリハビリテーションの主要分 野（5分野）の各定義	全米リハビリテーション協議会の定義 世界保健機構（WHO）による定義	
		国連・障害者世界行動計画による定義 我が国におけるリハビリテーション理念 リハビリテーション主要分野（5分野）の各定義	
2回	世界のリハビリテーションの歴史的 変遷	リハビリテーションの国際的發展過程	佐々木
3回		我が国におけるリハビリテーションの発展 リハビリテーションにかかわる専門職の養成	
4回～ 6回	現代におけるリハビリテーション ニーズ	国連・障害者世界行動計画におけるリハビリテーション 障害者運動の影響 国際障害者年 障害者プランの推進と障害者基本法 社会福祉基礎構造改革	佐々木
7回	現代におけるリハビリテーション ニーズとリハビリテーションの基本 理念	リハビリテーションニーズ リハビリテーションの基本理念	工藤
8回	国際障害分類及び国際生活機能分類	国際障害分類と国際生活機能分類	
9回	医療従事者として特に留意すべき こと及び我が国の医学的リハビリテ ーションの課題と現実	インフォームドコンセント・EBM（根拠に基づく医療） 医療チーム・クリニカルパス・医療安全 個人情報保護法 ユニバーサルデザイン 医学的リハビリを巡る過去・現在、医学的リハビリの課程 と現実	工藤
10回～ 11回	リハビリテーションの主要分野とそ のサービス体系	医学的リハビリテーション 職業的リハビリテーション 社会的リハビリテーション 教育的リハビリテーション	佐々木
12回	①理学療法士及び作業療法士法の概 要 ②理学療法士及び作業療法士法施行 の概要	理学療法士や作業療法士の名簿・登録と秘密保持義務、理 学療法士・作業療法士の名称の使用制限等定義免許及び免 許欠格事由 理学療法士・作業療法士の免許申請・名簿の登録、名簿の 訂正、登録の削除、免許返納等	
13回	各種障害	運動障害、感覚障害、高次脳機能障害、その他	草野
14回	代表的な疾患のリハビリテーション	脳血管障害・脊髄損傷・心臓疾患等	工藤
15回	リハビリテーションに関する課程と学習	学生にリハビリの課題を与え学習結果を検証する。	

定期試験は別日程にて実施

評価方法	筆記試験による
オフィスアワー	授業前後の休憩時間

教科書 リハビリテーション概論（手作り最新版）・・・授業中に配布

科目	理学療法概論	単位・時間数	1単位・30時間
担当講師	阿部 靖・他	学年	1年生 前期
実績経験	資格 理学療法士	実務経験 総合病院・整形外科クリニック・老健・訪問リハ・ デイケア・教育機関	経年数 21年

授業の位置づけ	この授業では理学療法業務、理学療法士の役割を理解し、説明できるようになることを目的とする。医療・福祉分野における理学療法業務を実施するために、様々な業務の特徴を理解すること、プロフェッショナルの視点を持つための基礎を築くことが求められる。		
到達目標	理学療法業務、理学療法士の役割について理解し、説明することができる。 理学療法士の倫理観、行動規範について理解し、説明することができる。		
授業形態	講義・演習・実習	併用授業	

授業計画

回数	項目	講義内容
1回	総論	理学療法の歴史について学ぶ
2回		理学療法士の役割について学ぶ
3回	情意について	理学療法に求められる倫理観、専門職の意義について学ぶ
4回		理学療法に求められる倫理観、専門職の意義について学ぶ
5回	知識について	理学療法に求められる知識について学ぶ
6回		理学療法に求められる知識について学ぶ
7回	精神・運動について	理学療法に求められる技能について学ぶ
8回		理学療法に求められる技能について学ぶ
9回	社会的役割	理学療法士の社会的役割、協会の活動について学ぶ
10回	校外実習	臨床現場で必要な能力を学ぶ
11回		臨床現場で必要な能力を学ぶ
12回		臨床現場で必要な能力を学ぶ
13回		臨床現場で必要な能力を学ぶ
14回		臨床現場で必要な能力を学ぶ
15回		臨床現場で必要な能力を学ぶ

成績評価	レポート課題100%	受講上のルール・留意点	特になし。
------	------------	-------------	-------

課題やレポートに関するフィードバック

個別及び全体にフィードバックする。

	書名	著書名	出版社名
教科書			
参考書			
オフィスアワー	メールでの連絡は随時 y-abe@nichireha.ac.jp		

科目	PBLセミナー I		単位・時間数	1単位・ 30時間
担当講師	木下 修 塚本奈々子 高橋豊 PT教員		学 年	1年生 後期
実績経験	資格	義肢装具士として41年、製作・適合判定に従事していました。 理学療法士として31年、総合病院（急性期・回復期）・クリニック・老健施設・特 養・訪問・ディサービス・保健所・教育機関は大学・大学院などに従事していまし た。		
	理学療法士 (31年) 義肢装具士 (41年)			
授業の 位置づけ	PBL授業では、学生同士でのグループワークを通して共同で問題に対し乗り越え、学生・教員が共 通の目標・目的に向かって一緒に活動することを学習する。医療者としての心身を鍛え、グループ に対する責任感と奉仕の精神を身に着ける。これにより将来、医療の専門職として社会に貢献する のに必要な専門職連携の基盤を育成する。 初年次に学び2年次に行うPBL活動へとつながる学習です。チームとして明確な目標をもってチ ーム内でコミュニケーションを大切に、チームワークの重要性を学習する。			
到達目標	チーム内でコミュニケーションが取れて明確な目標を定めることができる。 チームの目標を達成するために、傾聴と主体的に行動できる。 自ら疑問をもって解決に向けてチームとともに活動できる。			
授業形態	演習		対面授業	

授業計画

回数	項目	講義内容	
1回	オリエンテーション	PBLに関する基礎知識の学習	
2回			
3回	シナリオ検討	わからない言葉を調べてグループで共有	
4回		わからない言葉を調べてグループで共有	
5回		症例の全体像をイメージしつつ掘り下げて考え、学習し、討論する	
6回		症例の全体像をイメージしつつ掘り下げて考え、学習し、討論する	
7回		症例の全体像をイメージしつつ掘り下げて考え、学習し、討論する	
8回		症例の全体像をイメージしつつ掘り下げて考え、学習し、討論する	
9回		症例の全体像をイメージしつつ掘り下げて考え、学習し、討論する	
10回		症例の全体像をイメージしつつ掘り下げて考え、学習し、討論する	
11回		発表準備・まとめ	発表に向け、内容や構成を決めてまとめる
12回			発表に向け、内容や構成を決めてまとめる
13回	発表	まとめた内容を発表	
14回		まとめた内容を発表	
15回	シナリオ解説、ふりか えり	症例について解説、演習についてよかった点や今後の課題を整理する	

成績評価	授業内発表：50% 課題提出：50%	受講上のルール・留意点	授業中は私語を控えて授業に集中する。 グループワーク課題は積極的に行う。
------	-----------------------	-------------	---

課題やレポートに関するフィードバック			
フィードバックは全体に行う。			

	書名	著書名	出版社名
教科書	なし		
参考書			
オフィスパワー	授業時間以外で質問のある場合には、事前にメールで予約をしてください。 Mail: o-kinoshita@nichireha.ac.jp		

科目	理学療法セミナーⅠ		単位・時間数	2単位・ 60時間
担当講師	高瀬 塚本 高林		学年	1年生 通年
実績経験	資格	理学療法士として、急性期～維持期のリハ・訪問リハ・デイケアにて積極的に治療を行ってきた実務経験を活かし、実例を交えながら講義を行う。		
	理学療法士			
授業の位置づけ	専門領域の勉強の導入として勉強方法を学んだ上で、解剖・運動・生理を含めた基礎科目についてグループワークを中心に復習を深めて理解を深める 1. 各種勉強方法について説明できる。 2. 効率的なグループワークの実施方法について説明できる。 3. 各授業で学んだ内容について概要を説明できる。			
到達目標	勉強方法、グループワークの実施方法について理解できる 各授業の内容についてより深く理解できる			
授業形態	講義・演習		併用授業	

授業計画

回数	項目	講義内容
1回	学習法	学習とは
2回	学習法	記憶
3回	学習法	メモとノート
4回	学習法	関節の形状
5回	学習法	KJ法 プレインストーミング
6回	学習法	PDCAサイクル
7回	学習法	レポート
8回	学習法	グループワークとは
9回	内部環境	ホメオスタシス
10回	細胞の機能と構造	構造
11回	細胞の機能と構造	機能
12回	血液の成分と働き	赤血球 白血球 血小板
13回	血液の成分と働き	赤血球 白血球 血小板
14回	心臓の機能と構造	構造
15回	心臓の機能と構造	血液循環
16回	心臓の機能と構造	刺激伝導系
17回	呼吸	外呼吸と内呼吸
18回	呼吸	肺機能
19回	呼吸	ガス交換
20回	消化吸収	消化器系の機能と構造
21回	消化吸収	消化
22回	消化吸収	吸収
23回	関節とてこ	各々について
24回	骨と関節の運動	関節内の運動
25回	骨と関節の運動	骨の運動の基本形
26回	上肢帯の関節	肩甲帯
27回	上肢帯の関節	肩～手関節
28回	下肢帯の関節	股関節
29回	下肢帯の関節	膝関節・股関節
30回	体幹	脊柱

成績評価	試験：80% 提出物等：20%	受講上のルール・留意点	後期はグループワークがメインとなるため他者に迷惑をかけないことを常に心がけること
------	--------------------	-------------	--

課題やレポートに関するフィードバック

FBは全体に実施する

	書名	著者名	出版社名
教科書			
参考書			
オフィスアワー	メールでの連絡は随時 s-takase@nichireha.ac.jp		

科目	検査測定法Ⅰ	単位・時間数	1単位・30時間
担当講師	高橋 豊 下村 周平 臼杵 寛	学年	1年生 後期
実績経験	資格	高橋：実務経験10年 介護老人保健施設・訪問リハビリテーション・デイケア・デイサービスにて勤務。実務経験を活かし、実例を交えながら講義を行う。	
	理学療法士	下村：実務経験14年（病院、通所、訪問、予防事業等）の経験を踏まえ、実例を交えながら講義を行う。 臼杵：実務経験21年（病院、老健、通所、訪問、予防事業など）の経験を踏まえ、実例を交えながら講義を行う。	

授業の位置づけ	検査測定・評価の意義と方法を理解することを目的とし、対象者に対して適切な評価を行えるよう学習する		
到達目標	評価・血圧測定・バイタル測定・肢長周径・呼吸機能検査・循環機能検査ができる		
授業形態	講義・演習	対面授業	

授業計画

回数	項目	講義内容
1回	評価総論	リハビリテーション概念と評価
2回		情報収集
3回		情報収集
4回		ICIDHとICF
5回	バイタルサイン	意識・脈拍・心拍
6回		呼吸・血圧
7回		バイタル測定実技
8回		バイタル測定実技
9回	形態測定	肢長周径 上肢
10回		肢長周径 上肢
11回		肢長周径 下肢
12回		肢長周径 下肢
13回		形態測定 まとめ
14回	感覚検査	感覚・知覚検査
15回		感覚・知覚検査実技

成績評価	筆記試験90% 小テスト10%	受講上のルール・留意点	実技が行いやすい服装での参加
------	--------------------	-------------	----------------

課題やレポートに関するフィードバック

全体へのフィードバックを実施するとともに、必要に応じ個別にも行う

	書名	著書名	出版社名
教科書	理学療法評価学 第6版補訂版	松澤正/江口勝彦	金原出版
参考書			
オフィスアワー	高橋：授業前後及びメール(y-takahashi@nichireha.ac.jp) 下村：授業前後及びメール(s-shimomura@nichireha.ac.jp) 臼杵：授業前後及びメール(h-usuki@nichireha.ac.jp)		

科 目	検査測定法Ⅱ		単位・時間数	2単位・45 時間
担当講師	高橋 豊 下村 周平 臼杵 寛		学 年	1年生 後期
実績経験	資格	高橋：実務経験10年 介護老人保健施設・訪問リハビリテーション・デイケア・デイサービスにて勤務。実務経験を活かし、実例を交えながら講義を行う。 下村：実務経験14年（病院、通所、訪問、予防事業等）の経験を踏まえ、実例を交えながら講義を行う。 臼杵：実務経験21年（病院、老健、通所、訪問、予防事業など）の経験を踏まえ、実例を交えながら講義を行う。		
	理学療法士			
授業の位置づけ	理学療法評価の中でも行う頻度の高い関節可動域測定、徒手筋力検査法について学ぶ			
到達目標	関節可動域測定の意義・目的・方法を理解し、実技・記録ができる 徒手筋力検査法の意義・目的・方法を理解し、実技・記録ができる			
授業形態	講義・演習		対面授業	

授業計画

回数	項目	講義内容
1回	関節可動域測定概要	関節可動域検査の定義・意義・目的
2回	上肢関節可動域検査	肩甲帯・肩関節
3回		肘関節・前腕
4回		手関節
5回	復習	上肢の関節可動域検査復習
6回	下肢関節可動域検査	股関節
7回		膝関節
8回		足関節・足部
9回	復習	下肢の関節可動域検査復習
10回	体幹関節可動域検査	頸部・胸腰部
11回	その他の関節可動域検査	顎関節・指関節など
12回	関節の変形	関節の変形について
13回	徒手筋力検査概要	徒手筋力検査法の定義意義・目的
14回	上肢筋力検査	肩甲帯・肩関節
15回		肩関節
16回		肘関節
17回		手関節・手指
18回	下肢筋力検査	股関節
19回		股関節
20回		膝関節
21回		膝関節
22回		足関節・足趾
23回	総復習	検査実技

成績評価	筆記60%実技30% 小テスト10%	受講上のルール・留意点	実技が行いやすい服装での参加
課題やレポートに関するフィードバック			
全体へのフィードバックを実施するとともに、必要に応じ個別にも行う			

	書名	著書名	出版社名
教科書	理学療法評価学 第6版補訂版 新・徒手筋力検査法 原著第10版	松澤正/江口勝彦 Dale Avers他著、津山直一他訳	金原出版 協同医書
参考書			
オフィスアワー	高橋：授業前後及びメール(y-takahashi@nichireha.ac.jp) 下村：授業前後及びメール(s-shimomura@nichireha.ac.jp) 臼杵：授業前後及びメール(h-usuki@nichireha.ac.jp)		

科目	運動療法学Ⅰ		単位・時間数	1単位・30時間
担当講師	吉葉則和 内山結城 村井敦士 畠山敦		学年	1年生 後期
実績経験	資格	吉葉：実務経験22年理学療法士として総合病院、クリニック、維持期を経験、教育機関にて学生教育にかかわる。 内山：実務経験14年、IPNFA(国際PNF協会)認定セラピスト。病院施設スポーツ整形クリニック等での経験。 村井：実務経験30年、1992年より中枢疾患を中心とした病院で勤務。2005年に鍼師・灸師・あんまマッサージ指圧師を取得。その後教育機関で専任として勤務。 畠山：1985理学療法士免許取得38年目。急性期病院で施設認可を2か所取得。急性期の脳卒中・失調症・整形外科等、12年ほど経験してきた。		
	理学療法士			
授業の位置づけ	運動療法は理学療法の根幹となる部分である。技術の派生は多岐にわたる。その根本をなす運動療法の目的を理解するためには、他科目で学習した解剖・生理・運動学などを統合していく必要があり、再確認の場ともなる。また、実技を実際行うことで、相手に対する行動として、理学療法士のたしなみや配慮の必要性も感じて欲しい。			
到達目標	各種運動療法の目的や効果の学習と運動療法の実践			
授業形態	講義・演習		対面授業	

授業計画

回数	項目	講義内容
1回	運動療法とは	歴史など
2回	運動療法の概要	運動による身体の変化
3回	運動療法の基礎知識	リスク管理
4回		運動療法の目的
5回		関節について
6回		骨、筋について
7回		運動療法の一般原則
8回	運動療法の基礎1	関節可動域訓練
9回		演習
10回		演習
11回	運動療法の基礎2	ストレッチ
12回		演習
13回		演習
14回	運動療法の基礎3	筋力トレーニング
15回		演習

成績評価	筆記試験80%、提出物20% 欠格要件（授業時間1/3以上の結石者には単位を与えない）	受講上のルール・留意点	他者に対する礼儀と配慮、必要であれば補講又は実技練習を設ける
------	--	-------------	--------------------------------

課題やレポートに関するフィードバック

講義時間内もしくは講義後に対応

	書名	著書名	出版社名
教科書	運動療法学 障害別アプローチの理論と実際 第2版	市橋則明	文光堂
参考書			
オフィスアワー	担当授業の前後		

科 目	運動療法学Ⅱ		単位・時間数	1単位・ 30時間
担当講師	吉葉則和 内山結城 村井敦士 畠山敦		学 年	1年生 後期
実績経験	資格	吉葉：実務経験22年理学療法士として総合病院、クリニック、維持期を経験、教育機関にて学生教育にかかわる。		
	理学療法士	内山：実務経験14年。IPNFA(国際PNF協会)認定セラピスト。病院施設スポーツ整形クリニック等での経験。 村井：実務経験30年。1992年より中枢疾患を中心とした病院で勤務。2005年に鍼師・灸師・あんまマッサージ指圧師を取得。その後教育機関で専任として勤務。 畠山：1985理学療法士免許取得38年目。急性期病院で施設認可を2か所取得。急性期の脳卒中・失調症・整形外科等、12年ほど経験してきた。		

授業の位置づけ	各病態の概要を踏まえた運動療法の特徴と運動療法の種類を学習する。		
到達目標	各病態を理解し基本的な運動療法を学習する。		
授業形態	講義・実習	対面授業	

授業計画

回数	項目	講義内容
1回	運動療法の基礎4	バランスについて
2回		演習
3回	運動療法の基礎5	中枢性運動麻痺の病態とADL
4回		演習
5回		演習
6回		演習
7回	運動療法の基礎6	変形性膝関節症の病態とADL
8回		演習
9回		演習
10回	運動療法の基礎7	パーキンソン病の病態とADL
11回		演習
12回		演習
13回	運動療法の基礎8	高齢者の特徴と運動療法
14回		高齢者の運動療法
15回	まとめ	

成績評価	筆記試験80%、提出物20% 欠格要件（授業時間1/3以上の結石者には単位を与えない）	受講上のルール・留意点	他者に対する礼儀と配慮、必要であれば補講又は実技練習を設ける。疾患の概要理解のために文献の抄読、およびグループ発表。
------	--	-------------	--

課題やレポートに関するフィードバック	
講義時間内もしくは講義後に対応	

	書名	著書名	出版社名
教科書	運動療法学 障害別アプローチの理論と実際 第2版	市橋則明	文光堂
参考書			
オフィスアワー	担当授業の前後		

科 目	日常生活活動学Ⅰ		単位・時間数	1単位・ 30時間
担当講師	鍋城 武志、中村 信、高林 礼子、高橋 豊		学 年	1年生 後期
実績経験	資格	・鍋城 武志 実務経験20年 急性期病院、教育機関に常勤として勤務。実務経験を活かし実例を交えながら講義を行う。		
	理学療法士	・中村 信 実務経験21年 理学療法士として、病院・クリニック・特養・老健・訪問リハ・高齢者デイケア・重身デイサービス・教育機関にて培った経験を活かし、実例を交えながら講義を行う。 ・高林 礼子 実務経験25年 急性期病院、特養、通所、訪問などに勤務。教育機関に常勤として勤務。実務経験を活かし講義を行う。 ・高橋 豊 実務経験10年 介護老人保健施設・訪問リハビリテーション・デイケア・デイサービスにて勤務。実務経験を活かし、実例を交えながら講義を行う。		
授業の位置づけ	この授業では、日常生活動作（以下ADL）の知識と技術の基礎を学習する。この教科の基本概念となる生活の質（QOL）について理解し、関連した知識を学び、寝返りや歩行・炊事や買い物のような日常生活を医療的視点から見つめ直す。日常生活を論理的・現実的に分類するために国際生活機能分類（ICF）を学ぶ。日常生活の変化を評価し理学療法に反映させるためのツールとしてバーゼルインデックス（BI）・機能的自立度評価表（FIM）を学ぶ。見学実習や臨床実習で患者様と接する際の基本的技術として介護法を学ぶ。 授業方法はプリント・パワーポイントを主とした講義形式で、ICF・BI・FIMの講義後には分類や採点に関し実際の状況を想定して2人以上のグループでディスカッションを行う。車椅子駆動と杖歩行に関して患者様の状態を体験するための演習を行う。実技では基本的に2人1組で杖歩行の行い方や介護法を学ぶ。			
到達目標	○リハビリテーションにおけるADLの関わりを理解している の採点を行える 説明しながら行える ○ICFの分類とBI・FIM ○車椅子駆動・杖歩行や介護に関して相手に			
授業形態	講義・演習		対面授業	

授業計画

回数	項目	講義内容
1回	ADLと概念	ADLの位置づけ、概念、分類
2回		QOLと構造
3回	障がいの定義と分類	障がいの定義、ICIDH・ICFについて
4回		ICFの分類法（グループワーク）
5回	ADL評価	ADL評価の目的、役割
6回		Barthel Indexの特徴・配点
7回		FIMの特徴・判定基準
8回		Barthel IndexとFIMの評価法（グループワーク）
9回		その他の評価法、評価の実際
10回	歩行補助具	歩行補助具の分類と使用方法、杖歩行の指導
11回	車椅子	車椅子の分類と使用方法、車椅子駆動の指導
12回	体験演習	杖歩行と車椅子駆動の体験演習
13回	介助法	基本動作の介助法（床上動作）
14回		基本動作の介助法（車椅子移乗）
15回		基本動作の介助法（歩行、階段昇降）

成績評価	筆記試験100%	受講上のルール・留意点	授業中は私語を控えて授業に集中する。 実技では動きやすい服装を準備する。また空いた時間は繰り返し復習する。
------	----------	-------------	--

課題やレポートに関するフィードバック

フィードバックは全体に行う。

	書名	著書名	出版社名
教科書	標準理学療法学 日常生活活動学・生活環境学 第6版	鶴見隆正、陸島研吾編集	医学書院
参考書	日常生活活動 第2版	千住秀明監修	神陵文庫
オフィスアワー	担当授業の前後		

科目	臨床見学実習 I	単位・時間数	1単位・ 45時間
担当講師	理学療法学科教員	学年	1年生 通年
実績経験	資格	総合病院（急性期・回復期）・クリニック・老健施設・特養・訪問・ディサービス・保健所・教育機関などに従事しています。	
	理学療法士		

授業の位置づけ	病院や診療所、介護施設で見学実習を実施する。医療機関・介護施設における理学療法士の役割や仕事の内容、関連職種との連携、チーム医療への理解を学習する。基礎知識の確認や実技演習などを中心に行う。 ・臨床現場の理学療法士の役割、具体的な仕事内容を説明できる。 ・医療・介護・福祉現場で働く専門職としての心構えを理解し説明できる。 ・見学実習をとして、今後の基礎学習に取り組むべきかを明確にし説明できる。		
到達目標	理学療法士の仕事内容について理解し説明できる。 リハビリテーションの考え方がどのように医療現場や介護福祉施設で実践されているのか理解できる。		
授業形態	実習		

授業計画

		実習内容
		<ol style="list-style-type: none"> 1) 病院・施設の理学療法士から、各施設での理学療法士の役割を学ぶ。 2) 医療者として理学療法士の持つ責任と心構えについて学ぶ。 3) 理学療法士が患者・利用者に対し、どのような接し方をしているか学ぶ。 4) 患者・利用者とのコミュニケーションを通して、理学療法士に求められるものを学ぶ。 5) 多職種との連携について学ぶ。 6) 医療における礼節・態度・接遇について学ぶ。

成績評価	臨床実習指導者の評価 および担当教員の評価、 提出物・レポート	受講上のルール・留意点	実習施設での遅刻・早退・欠席は認めない。 実習指導者に対し、報告・連絡・相談は必ず行う。 感染対策に対して、施設の規則に準じて行動する。
------	---------------------------------------	-------------	--

課題やレポートに関するフィードバック

実習終了後に、教員よりフォローアップを実施する。

	書名	著書名	出版社名
教科書			
参考書			
オフィスアワー	実習担当教員・担任と連絡を取る		

理学療法学科昼間部 2年 (令和2年改定 教育課程)

分野	科目	講師名	ページ
専門基礎分野	心理学	橋本 景子 30
	解剖Ⅳ	外部講師/PT教員 31
	運動生理学	高林 礼子、高瀬 慎輔、塚本 奈々子 32
	運動学実習	松岡 良幸、阿部 靖 33
	生涯発達概論	黒木 光 34
	病理学概論	プルカット・アルミラ 35
	臨床心理学	橋本 景子 36
	内科学・老年学Ⅰ	佐久間 肇 37
	内科学・老年学Ⅱ	佐久間 肇 38
	整形外科学Ⅰ	井上 肇 39
	整形外科学Ⅱ	井上 肇 40
	神経内科学	田口 丈士 41
	小児科学	川上 康彦、他 42
	専門分野	理学療法セミナーⅡ	高瀬 慎輔、塚本 奈々子、高林 礼子
専門基礎医学演習Ⅰ		阿部 靖、坂本 聡 44
検査測定法Ⅲ【反射・中枢】		佐藤 和世、鈴木 雅男、塚本 奈々子 45
検査測定法Ⅳ【整形・動作】		土手 延恭 46
PBLセミナーⅡ		木下 修、塚本 奈々子、高橋 豊、PT教員 47
物理療法学Ⅰ		篠田 良平、高林 礼子 48
日常生活活動学Ⅱ		鍋城 武志、中村 信、高林 礼子、高橋 豊 49
疾患別理学療法学Ⅰ-A		木下 修、土手 延恭、塚本 奈々子 50
疾患別理学療法学Ⅰ-B		木下 修、土手 延恭、高橋 豊 51
疾患別理学療法Ⅱ-A		佐藤 和世 52
疾患別理学療法Ⅱ-B		臼杵 寛、中村 信 53
疾患別理学療法Ⅲ-A		塚本 奈々子、高林 礼子 54
疾患別理学療法Ⅲ-B		塚本 奈々子、佐藤 和世 55
疾患別理学療法Ⅳ-A		鍋城 武志、塩澤 和人 56
疾患別理学療法Ⅳ-B		高瀬 慎輔、塩澤 和人 57
理学療法技術論Ⅰ【関節】		橋本 悠太 58
理学療法技術論Ⅳ【PNF】		水口 健一 59
臨床見学実習Ⅱ		理学療法学科教員 60

科目	心理学		単位・時間数	1単位・ 30時間
担当講師	橋本 景子		学 年	2年生 前期
実績経験	資格	カウンセラーとして33年間、これまでのべ2万人を超えるカウンセリングを行ってきた。2000年に臨床心理士資格を取得。その後はSCとして、中学校や高校、専門学校、大学等でカウンセリングとそれに関する講義を行ってきたので、人の心について考え、事例を元に実践的な講義を行っていく。(三重県臨床心理士会・元会長)		
	臨床心理士			
授業の位置づけ	今後心理学の分野を学ぶために必要な心理学的思考法、及び基礎知識を身につけることを目的とする。様々な心理学的メカニズムを知ることは、対人関係において直接影響を与えないように見えますが、実は重要なことです。			
到達目標	心理学の基礎を学ぶことで、人の心の成り立ちを理解するとともに、価値観の違いも認められるようになる。			
授業形態	講義		遠隔授業	

授業計画

回数	項目	講義内容
1回	知覚と認知の心理①	知覚特性/人は心で物を見る
2回	知覚と認知の心理②	認知プロセス
3回	感情と情緒の心理	「感情」というものについて考える
4回	欲求と動機の心理	生理的欲求と心理的欲求
5回	学習と記憶の心理①	学習のメカニズム
6回	学習と記憶の心理②	記憶のプロセス
7回	性格と知覚の心理①	性格についての心理学的アプローチ
8回	性格と知覚の心理②	「知能」についてディスカッションを通して考える
9回	無意識と臨床心理①	フロイト、アドラー、ユング
10回	無意識と臨床心理②	代表的な心理療法
11回	発達と成長の心理①	誕生から学童期まで
12回	発達と成長の心理②	思考の発達と青年期以降
13回	対人と社会の心理	対人関係の持ち方等自分自身を振り返る/学習性無力感はどこから生じるのか
14回	PTSDと多重人格①	解離性同一性障害/ DVD視聴
15回	PTSDと多重人格②	人の心の不思議について考える

成績評価	試験80%、発表や質問等20%	受講上のルール・留意点	日頃からcritical thinkingで物を見聞きする癖をつけてください。心理学を学ぶといかに騙されているか、あるいは自分の価値観で物を見ているかに気づくはず。講義中、そういう気づきがあれば(例えば昨日のニュースを見てとか)どんどん発表してください。これが心理を理解する近道です。
------	-----------------	-------------	--

課題やレポートに関するフィードバック

FBは全体に実施する

	書名	著書名	出版社名
教科書	イラストレート 心理学入門3	齊藤 勇	誠心書房
参考書	日々の生活の中にあります。		
オフィスアワー	理学療法学科の教員を通して連絡をしてください。		

科目	解剖学Ⅳ	単位・時間数	1単位・30時間
担当講師	外部講師／PT教員	学年	2年生及び3年生
実績経験	資格	大学医学部、歯学部解剖学講座の教員	

授業の位置づけ	<p>本授業は大学医学部、歯学部のご協力のもと、「骨格系・筋肉系・神経系」を中心とした人体の基本構造を学び、三次元的に理解し、医の倫理、生命の尊厳を自ら学びとることを目標としている。</p> <p>今まで学習した解剖学、生理学について、復習しておくこと。</p> <p>大学施設にて「講義」「実習」を行う。</p>		
到達目標	<p>1. 人体の構造と機能について、基本構造を説明することができる。</p> <p>2. 医療従事者を目指す者として、医の倫理を理解し、生命を尊厳を尊厳することができる。</p>		
授業形態	講義・演習・実習	対面授業	

授業計画

回数	項目	講義内容
1回	解剖見学実習①	「骨格系・筋肉系」の構造について
2回	解剖見学実習②	「神経系」の構造について
3回	事前学習	骨格、関節と靭帯
4回	事前学習	骨格、関節と靭帯
5回	事前学習	筋系
6回	事前学習	筋系
7回	事前学習	神経系
8回	事前学習	神経系
9回	事前学習	内臓系
10回	医の倫理①	医の倫理について
11回	医の倫理②	生命の尊厳について
12回	解剖見学実習③	骨格、関節と靭帯
13回	解剖見学実習④	筋系
14回	解剖見学実習⑤	神経系
15回	解剖見学実習⑥	内臓系

成績評価	レポート課題100%	受講上のルール・留意点	実習に臨むにあたり、礼節を保ち、医療従事者を目指す者として態度に十分気をつけること。
------	------------	-------------	--

課題やレポートに関するフィードバック

レポート課題について、フィードバックは全体に実施する。

	書名	著書名	出版社名
教科書	授業で使った解剖学、生理学等の教科書		
参考書	授業で使った解剖学、生理学等の教科書		
オフィスアワー	担当授業の前後		

科 目	運動生理学	単位・時間数	1単位・30時間
担当講師	高林、高瀬、塚本	学 年	2年生 前期
実績経験	資格	高林：実務経験25年間（病院、特養、通所、訪問等）の経験を踏まえて講義を行う。	
	理学療法士		
授業の位置づけ	<p>運動生理学は主に運動に対する生理反応を理解する学問である。健康者の運動に対する生理反応を中心に学習し、理解することで今後のリスク管理等につなげる目的で学習する。</p> <p>・健康者の体内で起こる反応などについて理解できる</p>		
到達目標	<p>生理学的理解からリスク管理へとつなげる思考を説明できる 運動による呼吸・循環・代謝などの変化について説明できる</p>		
授業形態	講義・演習	併用授業	

授業計画

回数	項目	講義内容
1回	筋収縮とエネルギー供給系	骨格筋の構造、ATP供給経路
2回	筋繊維の種類とその特徴	収縮様式、筋張力と長さ
3回	筋収縮での神経の役割	運動性皮質と錐体路、運動単位など
4回	換気の運動生理学	呼吸中枢と呼吸調節、換気メカニクス
5回	ガス交換の運動生理学	ガス交換、運動時の呼吸循環応答
6回	循環の仕組みと働き	循環系の構造、心周期
7回	循環器系と運動	重力に対する循環反応、起立性低血圧
8回	関節の運動生理学	関節の運動生理
9回	体温の運動生理学	体温と体熱のバランス 体温調整
10回	内分泌と運動	運動時のホルモン調節
11回	身体組成と肥満	身体組成モデルとその異常
12回	代謝疾患と運動	生活習慣病とは、運動の効果
13回	トレーニングの効果	体力とは、トレーニングの3大要素
14回	骨粗鬆症と運動	骨粗鬆症の背景、運動の効果
15回	加齢と運動	サルコペニア フレイルなど

成績評価	グループワーク10% 小テスト10% 筆記試験80%	受講上のルール・留意点	理解が必要な教科のため、しっかり授業に取り組むこと。
------	----------------------------------	-------------	----------------------------

課題やレポートに関するフィードバック

毎回、授業の疑問点について、確認シートを作成する。それに対するフィードバック（FB）を毎回おこなう。

	書名	著書名	出版社名
教科書	生理学、運動学の教科書		
参考書	リハビリテーション運動生理学、入門運動生理学	監修 玉木 彰、勝田茂編著	MEDICALVIEW
オフィスアワー	<p>メールでの連絡は随時 r-takabayashi@nichireha.ac.jp s-takase@nichireha.ac.jp n-tsukamoto@nichireha.ac.jp</p>		

科目	運動学実習		単位・時間数	1単位・ 45時間
担当講師	松岡 良幸、阿部 靖		学 年	2年生 後期
実績経験	資格	総合病院、訪問リハビリ、通所リハビリ勤務経験を活かし、その経験を授業の取り入れていく		
	理学療法士			
授業の位置づけ	ヒトの特徴を脳機能（情動含む）・身体機能面から分析できる力を養う。 なかでも基本的動作能力について分析できる力を養う。 ICFの分類に基づき動作を考察できる思考力を養う。			
到達目標	講義のもと学生間の模擬実習を通じて患者の動作を理解していく			
授業形態	講義及び実技	対面授業		

授業計画

回数	項目	講義内容
1回	臨床動作分析総論	イントロダクション
2回		
3回	運動学習	運動制御理論と運動学習理論
4回		
5回	正常動作	基本動作の概要
6回	動作分析の進め方と展開	動作分析の特徴
7回		問題解決と意思決定
8回		推論過程
9回	動作分析の実際（目視による評価）	臥位
10回		寝返り動作
11回		起き上がり動作
12回		座位
13回		立上り動作
14回		立位
15回		歩行
16回	動作分析実習（動作メカニズムの評価）	寝返り動作
17回		起き上がり動作
18回		
19回		立ち上がり動作
20回		歩行
21回		
22回		
23回		

成績評価	レポート他	受講上のルール・留意点	授業時間数の3分の1を超えて欠席した者には単位を与えない
------	-------	-------------	------------------------------

課題やレポートに関するフィードバック

課題やレポートに関するフィードバック			

	書名	著書名	出版社名
教科書	動作分析-臨床活用講座- バイオメカニクスに基づく臨床推論の実際	石井 慎一郎	MEDICAL VIEW
参考書			
オフィスアワー	授業前後の休憩時間		

科目	生涯発達概論		単位・時間数	1単位・8時間
担当講師	黒木 光		学年	2年生 後期
実績経験	資格	実務経験 20年 理学療法士として、総合病院・整形外科クリニック・老健・訪問リハ・デイケア・放課後デイ・教育機関にて積極的に治療を行ってきた実務経験を活かし、実例を交えながら講義を行う。小児領域は訪問を中心に地域で活動している。発達運動をベースにした評価、治療を行っている。		
	理学療法士			
授業の位置づけ	1年次に学んだ人間発達学をベースに、この授業では運動発達をより深く理解し、観察力をつけるために講義と実技演習で説明・実技指導する。理学療法分野では運動を観察すること（視覚での把握と解釈の両方）は仕事上の基本となる。この授業では運動発達を深く理解し、観察力を向上させることで、小児以外の分野でも応用できるようにすることも目標に置いている。 講義30%、実技演習70%			
到達目標	各専門領域の知識を学び、その内容を説明できるようになる。 各分野に関心を持ち、調べて、思考できるようになる。 自身らの体験や臨床の実例を通して、幅広い情報収集力と人間観察力を身につけることができる。			
授業形態	講義・演習		併用授業	

授業計画

回数	項目	講義内容
1回	乳児の運動発達	新生児から3か月までの運動発達（演習）
2回	乳児の運動発達	新生児から3か月までの運動発達（演習）
3回	乳児の運動発達	4か月から6か月までの運動発達（演習）
4回	乳児の運動発達	4か月から6か月までの運動発達（演習）
5回	乳児の運動発達	7か月から9か月までの運動発達（演習）
6回	乳児の運動発達	7か月から9か月までの運動発達（演習）
7回	乳児の運動発達	10か月から歩行ができるまで
8回	成人の発達	成人の心理的発達と成長について

成績評価	授業課題100% 授業時間数の3分の1以上 欠席した者は試験は受験させず、単位を与えない	受講上のルール・留意点	動きやすい服装（半袖、短パン）、観察しやすい服装を用意ください。ジーパンや体の線が見にくい服装は控えてください。 お互いの身体を利用しながら学習をおこないますので、互いに敬意をもって演習をおこないきましょう。
------	--	-------------	---

課題やレポートに関するフィードバック

毎回、授業で学んだこと、調べたいこと、疑問点などについて、授業振り返りシートを使って記入いただきます。内容はフィードバックしますので、必ず提出をしてください。

	書名	著書名	出版社名
教科書	指定なし		
参考書	イラストでわかる人間発達学	上杉 雅之	医歯薬
オフィスアワー	メールでの連絡は随時 h-kuroki@nichireha.ac.jp		

科目	病理学概論	単位・時間数	2単位・30時間
担当講師	プルカット・アルミラ	学年	2年生 後期
実績経験	資格	大学病院などで行ってきた病理検査経験を生かし、実例と国家試験問題の解説などを交えながら講義を行う。	
	医師		

授業の位置づけ	病理学は基礎医学の総まとめおよび臨床医学への橋渡し役となっている。解剖や生理学で学んだ人体の正常構造と機能にどんな異常が生じて患者が苦しんでいるのか、要するに「疾病の成り立ち」を理解する基礎である。すべての医療従事者に共通して患者の病態を正確に把握するために病気の原因、発生メカニズム、経過と転帰を深く理解することが求められるので、病理学の学習が必須とされる。 講義では病因となる内因と外因を踏まえ、全身の各臓器で共通する、退行・進行性病変、循環障害、炎症・感染症、免疫疾患、腫瘍、先天異常などの概念や主要疾患、そして、各臓器の各疾患の特徴について説明する。授業はプレゼンテーション形式で行われる。		
到達目標	1) 進行・退行性病変、代謝障害、循環障害、炎症、腫瘍、奇形などの疾患を総論的に説明できる。 2) 疾患に関わる病理学的用語を理解し、正しく使える。 3) 他の講座で学ぶ疾患と本講座の知識との関連性を見出し説明できる。		
授業形態	講義	遠隔授業	

授業計画

回数	項目	講義内容
1回	病理学の概要 病因論	病理学の概念について理解する、疾病の外因・内因を理解する
2回	退行・進行性病変	変生、萎縮、壊死、アポトーシス、肥大、過形成、化生、異型性及び再生などの概念を学ぶ
3回	代謝異常	生命を維持するための代謝及び代謝異常により引き起こされる病態について学ぶ
4回	循環障害①	体循環の基礎、局所循環障害の病因・病態について理解する
5回	循環障害②	全身循環の病因・病態について理解する。炎症の経過と生体の反応を理解する
6回	炎症・感染症	感染症の成り立ち及び感染症を引き起こす主な病原体について理解する
7回	腫瘍①	腫瘍の特徴、命名と分類、形態、悪性腫瘍の進展形式を学ぶ
8回	腫瘍②	進行度、発生原因と発がんメカニズムを学ぶ
9回	先天異常、奇形	遺伝性疾患、染色体異常と奇形の基礎を学ぶ
10回	循環器①	心臓の疾患を学ぶ
11回	循環器② 呼吸器①	血管の疾患を学ぶ； 上気道、肺に見られる一部の疾患について学ぶ；
12回	呼吸器②	肺、胸膜に見られる疾患、腫瘍を学ぶ
13回	神経系①	脳血管障害、中枢神経系の感染症、脱髄疾患などの病理学変化を学ぶ
14回	神経系② 運動器①	主要な神経変性疾患の病理学変化を学ぶ； 骨、軟骨に見られるの疾患について学ぶ；
15回	運動器② 全体復習	関節・筋肉の疾患について学ぶ

成績評価	定期試験100% (授業時間数の3分の1以上欠席した者には単位を与えない)	受講上のルール・留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・定期試験は筆記試験を行う ・不合格者対象に再試験を行う ・定期試験範囲を授業中に重要とされる内容や配布される演習問題等とする
------	--	-------------	---

課題やレポートに関するフィードバック	
FBは全体に実施する	

教科書	書名 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 病理学 (第4版) (ISBN 978-4-260-02871-4)	著者名	奈良 勲ら	出版社名	医学書院
参考書					
オフィスアワー	授業前後の休憩時間に対応します。 p-almira@stu.nichireha.ac.jp				

科目	臨床心理学	単位・時間数	1単位・ 30時間
担当講師	橋本 景子	学 年	2年生 前期
実績経験	資格	カウンセラーとして33年間、これまでのべ2万人を超えるカウンセリングを行ってきた。2000年に臨床心理士資格を取得。その後はSCとして、中学校や高校、専門学校、大学等でカウンセリングとそれに関する講義を行ってきたので、人の心について考え、事例を元に実践的な講義を行っていく。(三重県臨床心理士会・元会長)	
	臨床心理士		
授業の位置づけ	私たちの心のしくみについて、臨床心理学の立場から”心”というものを捉えていく。そうすることで作業療法士として利用者に関わる時、あるいは一人の大人として人に関わる時、人間理解に通じるだけではなく、自分自身の生き方にも変化が生じてくる。 ①心の病・心の傷はなぜ起きるのかを理解する ②ストレスから起きる様々な症状についてその概略を知る ③心理療法に関する著名な人物のアプローチを知る ④様々な心理療法についてその概略を知る ⑤この授業を通して、自分を振り返るきっかけとする		
到達目標			
授業形態	講義	遠隔授業 (ZOOM)	

授業計画

回数	項目	講義内容
1回	臨床心理学とは	臨床心理学とは? カウンセリングと相談の違い
2回	異常心理学	何を異常と見なすか DSMと ICDについて
3回	心理アセスメント	面接法、観察法、検査法などについて
4回	心理療法	心理療法とは何か
5回	精神分析	フロイトの精神分析について学ぶ
6回	精神分析からの考え方	精神分析からの広がり
7回	クライアント中心療法	カウンセリングの基礎となっているロジャーズの来談者中心療法
8回	学習理論と行動療法	古典的条件づけ、道具的条件づけ等
9回	精神疾患	現代社会で多い精神疾患について学ぶ
10回	現代の病	多重人格 ビデオ視聴 「現代の病」を知る
11回	認知理論と認知行動療法	現在よく使われている認知行動療法について学ぶ
12回	① カウンセリングの実際	DVDから学ぶ/DVD視聴
13回	② カウンセリングの実際	DVDから「カウンセリング」というものを理解する/ディスカッションと質問
14回	③ カウンセリングの実際	DVDから絵画療法と箱庭療法の見方を学ぶ
15回	まとめと振り返り	心理療法のプロセスとまとめ

成績評価	試験80%、発表や質問等20%	受講上のルール・留意点	人は自分で言葉を発し、それを自分の耳で聞いて初めて自分の思いを本当に理解することができます。講義を止めても構いませんので、ぜひあなたの頭に浮かんできたことを言葉にしてみてください。
------	-----------------	-------------	--

課題やレポートに関するフィードバック

FBは全体に実施する

	書名	著書名	出版社名
教科書	第2版 『専門職のための臨床心理学基礎』	橋本 和幸	ムイスリ出版
参考書	ドラマなどから学ぶのが一番だと思っています。		
オフィスアワー	理学療法学科の教員を通して連絡をしてください。		

科 目	内科学・老年学 I	単位・時間数	2単位 ・ 30時間
担当講師	佐久間 肇	学 年	2年生 前期
実績経験	資格	総合内科専門医、神経内科専門医、リハビリ科専門医として臨床経験を積んできた。臨床での実例経験も紹介しながら講義を行う。	
	医師		

授業の位置づけ	リハビリテーションの対象となる患者は内部障害者の他に、多数の内科学疾患を合併している患者さんが多く、内科学疾患の理解がないと適切なリハビリテーションが実施できないことや、現在のチーム医療という観点からも内科学疾患の理解が必要である。内科学全般にわたり、病態、症候、検査、治療について主にスライド利用した講義、国試過去問を利用して理解を深める。		
到達目標	主要な内科学疾患の病態、症候、検査、治療について理解し、説明できる。		
授業形態	講義	「対面授業」もしくは「遠隔授業」	

授業計画

回数		講義内容
1回	内科学総論 1	診察の流れ、身体診察法、疾病の要因、障害に対する細胞の反応
2回	内科学総論2	内科学疾患の症候1（発熱、動悸、咳・痰、呼吸困難、胸痛と腹痛など）
3回	内科学総論3	内科学疾患の症候2（脱水、浮腫、胸水、腹水など）
4回	内科学総論4	尿・便・血液、生理機能検査、画像検査
5回	循環器総論	心血管系の解剖と生理、主な症候、診断法
6回	循環器各論 I	高血圧、低血圧、虚血性心疾患（狭心症、心筋梗塞）、心筋疾患
7回	循環器各論 II	弁膜症、先天性心疾患、心不全
8回	循環器各論 III	不整脈、肺性心、大動脈疾患、末梢血管疾患
9回	呼吸器総論	肺の解剖と生理、症候と病態生理、臨床検査所見
10回	呼吸器各論 I	感染性肺疾患、慢性閉塞性肺疾患、びまん性汎細気管支炎、LAM、気管支喘息
11回	呼吸器各論 II	サルコイドーシス、ウェゲナー肉芽腫症、拘束性肺疾患、肺腫瘍、肺循環障害
12回	呼吸器各論 III	胸膜の疾患、横隔膜の疾患、呼吸異常、呼吸不全、呼吸リハビリテーション
13回	消化器総論	解剖と生理、症候と病態生理、検査法
14回	消化器各論 I	口腔疾患、食道疾患、胃・十二指腸疾患
15回	消化器各論 II	小腸疾患、大腸疾患、肛門疾患

成績評価	国家試験に準じた形式の試験および提出課題で評価する。	受講上のルール・留意点	私語を控えること
------	----------------------------	-------------	----------

課題やレポートに関するフィードバック	
課題提出後の授業で解説する。	

	書名	著書名	出版社名
教科書			
参考書			
オフィスアワー	授業時間前後で質問に応じます。		

科目	内科学・老年学Ⅱ	単位・時間数	2単位 ・ 30時間
担当講師	佐久間 肇	学 年	2年生 後期
実績経験	資格	総合内科専門医、神経内科専門医、リハビリ科専門医として臨床経験を積んできた。臨床での実例経験も紹介しながら講義を行う。	
	医師		

授業の位置づけ	リハビリテーションの対象となる患者は内部障害者の他に、多数の内科学疾患を合併している患者さんが多く、内科学疾患の理解がないと適切なリハビリテーションが実施できないことや、現在のチーム医療という観点からも内科学疾患の理解が必要である。内科学全般にわたり、病態、症候、検査、治療について主にスライド利用した講義、国試過去問を利用して理解を深める。		
到達目標	主要な内科疾患の病態、症候、検査、治療について理解し、説明できる。		
授業形態	講義	「対面授業」もしくは「遠隔授業」	

授業計画

回数	項目	講義内容
1回	肝胆膵疾患総論	肝胆膵腹膜の解剖と生理、検査法他
2回	肝胆膵疾患各論	肝胆疾患各論、膵疾患各論、腹膜疾患各論
3回	血液・造血器疾患総論	血液の成分と生理、造血と血液細胞の分化、症候、検査法
4回	血液疾患各論Ⅰ	赤血球系の疾患、白血球系の疾患
5回	血液疾患各論Ⅱ	リンパ性細網内皮系の疾患、M蛋白血症、出血性疾患、血栓性疾患
6回	代謝性疾患総論	代謝とは、栄養素とエネルギー、糖質、脂質、蛋白質、ビタミン、無機質
7回	代謝性疾患各論	糖尿病、インスリノーマ、脂質異常症、メタボリックシンドローム他
8回	内分泌疾患総論	内分泌総論、内分泌腺とホルモンの解剖、検査法
9回	内分泌疾患各論	視床下部疾患、下垂体疾患、甲状腺疾患、副甲状腺疾患、副腎疾患
10回	腎・泌尿器疾患総論	腎の解剖と生理、症候と病態生理、検査法
11回	腎・泌尿器疾患各論Ⅰ	腎不全、糸球体疾患、尿細管疾患、
12回	腎・泌尿器疾患各論Ⅱ	尿路系疾患、前立腺疾患、電解質代謝の異常
13回	膠原病・アレルギー疾患・免疫不全総論	免疫とは、免疫担当細胞、免疫グロブリン、体液性免疫、細胞性免疫、アレルギー
14回	膠原病・アレルギー疾患・免疫不全各論Ⅰ	SLE、SSc、多発性筋炎/皮膚筋炎、MCTD
15回	膠原病・アレルギー疾患・免疫不全各論Ⅱ	RA、SJS、ベーチェット病、多発性血管炎

成績評価	国家試験に準じた形式の試験および提出課題で評価する。	受講上のルール・留意点	私語を控えること
------	----------------------------	-------------	----------

課題やレポートに関するフィードバック	
課題提出後の授業で解説する。	

	書名	著書名	出版社名
教科書			
参考書			
オフィスアワー	授業時間前後で質問に応じます。		

科 目	整形外科学 I		単 位・時間数	2単位 ・ 30時間
担当講師	井上 肇		学 年	2年生 前期
実績経験	資格	整形外科専門医 実務経験 ①都立病院、聖路加国際病院での長年にわたる整形外科およびリハビリターの責任者として医師・療法士の教育に従事 ②都立大塚病院では都立病院初のリハビリ訓練所を立案・設立(1972年)。聖路加病院でリハビリテーション科を新設(1976年) ③日本のリハビリテーション創世期から共に歩んで来た④公費による2度の欧米留学(アメリカでは国立リハセンター)。⑤聖路加病院の新病院竣工時には院長名代としてNew York・Bostonの聖路加グループ病院を訪問、今後の医療の在り方について意見交換		
	医師			
授業の位置づけ	①もし整形外科医が存在しなかったら？ ②覚えた知識を「表化」する訓練・それにより欠落のない整理された知識を身につけ、応用の効く勉学法の勧め。③リハビリバカになり他業種から軽蔑されぬよう医学の基礎知識・社会音痴にならぬよう一般常識にも触れる			
到達目標	①講義ごとに毎回「覚えるべき事項や語句」を提示。②わからない場合は「その場で質問」「その場で解決」「決して先延ばししない」			
授業形態	講義・発表	対面が主ですが、状況によって「遠隔」		

授業計画

回数	項目	講義内容
1回	始めに	もし整形外科医がいなければ世の中はなるだろうか？診断とは
2回	診断学治療学①	診断の目的とプロセス
3回	治療学②	診断の目的とプロセス
4回	手術療法	診断の目的とプロセス
5回	各論	軟部組織損傷
6回	各論	骨関節損傷Ⅰ
7回	各論	骨関節損傷Ⅱ
8回	各論	肩関節
9回	各論	肘関節
10回	各論	手関節と手指
11回	各論	股関節Ⅰ
12回	各論	股関節Ⅱ
13回	各論	膝関節Ⅰ
14回	各論	膝関節Ⅱ
15回	定期試験	総まとめまたは中間試験

成績評価	定期試験	受講上のルール・留意点	①定期試験の前に中間試験をおこなう。目的は考える力を養成するため記述問題形式であり、5択問題形式では行わない。 ②定期試験は選択問題形式で行う。レポート・発表などは行わない。③授業時間数の3分の1以上欠席した者には単位を与えない。 授業時間数の3分の1以上欠席した者には単位を与えない
------	------	-------------	--

課題やレポートに関するフィードバック	
フィードバックは適宜実施	

	書名	著書名	出版社名
教科書	整形外科テキスト	高橋邦康・芳賀信彦	南江堂
参考書			
オフィスアワー	不明単語はその都度質問すること		

科 目	整形外科学Ⅱ		単位・時間数	2単位 ・ 30時間
担当講師	井上 肇		学 年	2年生 後期
実績経験	資格	整形外科専門医 実務経験 ①都立大塚病院、聖路加国際病院での長年にわたる整形外科およびリハビリターの責任者として医師・療法士の教育に従事 ②都立大塚病院では都立病院初のリハビリ訓練所を立案・設立(1972年)。聖路加病院でリハビリテーション科を設立(1976年) ③日本のリハビリ創世記からリハと共に歩んできた④公費による2度の欧米留学(アメリカでは国立リハセンター)。⑤聖路加病院の新病院竣工時に院長名代として New York・Bostonの聖路加グループ病院を訪問、未来の医療の在り方について意見交換。		
	医師			
授業の位置づけ	①もし整形外科医が存在しなかったら？ ②覚えた知識を「表化」する訓練・それにより欠落のない整理された知識を身につけ、応用の効く勉強法の勧め。③リハビリバカになり他職種から馬鹿にされぬよう医学の基礎知識・社会音痴にならぬよう一般常識にも触れる			
到達目標	①講義ごとに毎回「覚えるべき事項や語句」を提示。②わからない場合は「その場で質問」「その場で解決」「決して先延ばししない」			
授業形態	講義	対面が主ですが、状況によって「遠隔」		

授業計画

回数	項目	講義内容
1回	各論	足関節と足・脊椎 解剖と生理
2回	各論	脊椎・脊髄 外傷と疾患
3回	各論	頸椎、胸郭出口症候群
4回	各論	腰椎
5回	各論	骨盤、慢性関節疾患と関節リウマチ
6回	各論	慢性関節疾患
7回	各論	関節リウマチ、感染症
8回	各論	代謝・内分泌疾患、骨系統疾患、骨軟部腫瘍
9回	各論	神経疾患Ⅰ
10回	各論	神経疾患Ⅱ
11回	各論	骨壊死、骨端症、四肢循環障害
12回	各論	慢性疼痛、スポーツ整形、障害者整形
13回	予備	グループ発表等
14回	予備	総まとめ
15回	定期試験	総まとめまたは中間試験

成績評価	定期試験	受講上のルール・留意点	①定期試験の前に中間試験をおこなう。目的は考える力を養成するため記述問題形式であり、5択問題形式では行わない。 ②定期試験は選択問題形式で行う。レポート・発表などは行わない。③授業時間数の3分の1以上欠席した者には単位を与えない
------	------	-------------	---

課題やレポートに関するフィードバック

フィードバックは適宜実施

	書名	著書名	出版社名
教科書	整形外科テキスト	高橋邦康・芳賀信彦	南江堂
参考書			
オフィスアワー	不明単語はその場で質問すること		

科目	神経内科学	単位・時間数	2単位・ 30時間
担当講師	田口 丈士	学 年	2年生 前期
実績経験	資格	病院勤務20年以上、臨床経験の実例をもとに授業をすすめていく	
	医師		
授業の位置づけ	神経内科学を理解する		
到達目標	神経内科学総論・各論		
授業形態	講義	対面または遠隔授業	

授業計画

回数	項目	講義内容
1回	神経系の診察Ⅰ	意識障害・運動系
2回	神経系の診察Ⅱ	感覚系・自律神経系
3回	神経系の検査	CT・MRIなど
4回	脳血管障害Ⅰ	虚血性脳血管障害
5回	脳血管障害Ⅱ	出血性脳血管障害
6回	脳血管障害Ⅲ	その他の脳血管障害
7回	変性疾患Ⅰ	パーキンソニズム
8回	変性疾患Ⅱ	脊髄小脳変性症・運動ニューロン疾患ほか
9回	脱髄性疾患	多発性硬化症ほか
10回	末梢神経疾患	ギラン・バレー症候群ほか
11回	筋疾患	筋ジストロフィーほか
12回	神経筋接合部疾患・腫瘍・脊髄疾患	重症筋無力症ほか
13回	感染性疾患	髄膜炎ほか
14回	内科系疾患・外傷・自律神経疾患	内科系疾患に伴う神経障害など
15回	機能的疾患・認知症	頭痛・めまい・てんかん、アルツハイマー病ほか

成績評価	筆記試験	受講上のルール・留意点	授業時間数の3分の1を超えて欠席した者には単位を与えない
------	------	-------------	------------------------------

課題やレポートに関するフィードバック

	書名	著書名	出版社名
教科書	神経内科学テキスト 第3版 江藤文夫・飯島節 編		南江堂
参考書	病気がみえる Vol.7 脳・神経 医療情報科学研究所 MEDIC MEDIA ベッドサイドの神経の診かた 第18版 田崎義昭・斎藤佳雄 著 南山堂		
オフィスアワー			

科目	小児科学	単位・時間数	1単位・15時間
担当講師	川上 康彦、他	学年	2年生・後期
実績経験	資格	臨床経験20年以上	
	医師、日本小児科学会専門医		
授業の位置づけ	PT・OTは発達障害領域のリハビリテーションにおいて、積極的に児とかかわっていく。リハビリテーションを実施する以前に、小児科領域における疾患や障害の特性などを把握しておくことは必須の課題である。本講義を通して小児・思春期に特有の疾患・障害、またその治療方法について理解を深める。		
到達目標	代表的な小児疾患の特徴およびその治療方法について説明することが出来る。		
授業形態	講義を中心に行う	対面と遠隔の併用授業	

授業計画

回数	項目	講義内容
1回	成長・発達 (川上)	小児科学の総論、成長発達過程について
2回	神経疾患 (川上)	けいれん性疾患、てんかん、など
3回	先天異常 (右田)	先天異常、遺伝子病、遺伝カウンセリング、について
4回	骨・筋疾患 (高木)	神経筋疾患、筋ジストロフィー、てんかん、脳性麻痺、ボツリヌス治療など
5回	発達障害 (平山)	発達障害、自閉スペクトラム症、注意欠如多動症、について
6回	重症心身障害児 (平山)	脳性麻痺について、
7回	小児の代表的な疾患1 (右田)	新生児仮死、呼吸器・消火器疾患、川崎病など
8回	小児の代表的な疾患2 (植田)	小児の予防接種・感染症、発熱、血液疾患、について

成績評価	試験にて評価する	受講上のルール・留意点	3分の1を超える授業時間数を欠席したものは試験が受けられない。
------	----------	-------------	---------------------------------

課題やレポートに関するフィードバック

学科を通して行う

	書名	著書名	出版社名
教科書	なし		
参考書	標準理学療法学・作業療法学 小児科学 ナースのミカタ 小児看護	富田 豊 右田 真	医学書院 医学書院
オフィスアワー	クラス担任を通して、担当講師に連絡しますので、クラス担任に相談ください。		

科目	理学療法セミナーⅡ	単位・時間数	2単位・ 60時間
担当講師	高瀬 塚本 高林	学 年	2年生 通年
実績経験	資格	理学療法士として、急性期～維持期のリハ・訪問リハ・デイケアにて積極的に治療を行ってきた実務経験を話し、実例を交えながら講義を行う。	
	理学療法士		
授業の位置づけ	今までに学んだ解剖学と生理学の復習を通して理解を深めてその後の検査測定等を基礎から理解して行えるようにする。 1. 人体の構造、筋や関節について説明できる。 2. 各神経の機能について説明できる。 3. 各臓器の機能や構造について説明できる。		
到達目標	人体の内臓、筋、関節、神経等の部位や名称を正しく理解できる 各臓器の機能について正しく理解できる		
授業形態	講義・演習	併用授業	

授業計画

回数	項目	講義内容
1回	骨について	名称
2回	骨について	部位
3回	骨について	フィードバックと確認
4回	関節について	関節の形状
5回	関節について	各関節について
6回	関節について	フィードバックと確認
7回	筋・靭帯について	筋の構造と靭帯構造
8回	筋・靭帯について	筋の機能と靭帯機能
9回	筋・靭帯について	フィードバックと確認
10回	中枢神経について	脳について
11回	中枢神経について	脊髄について
12回	中枢神経について	フィードバックと確認
13回	末梢神経について	自律神経について
14回	末梢神経について	その他の神経について
15回	末梢神経について	フィードバックと確認
16回	循環器について	循環器の構造
17回	循環器について	循環器の機能
18回	循環器について	フィードバックと確認
19回	呼吸器について	呼吸器の構造
20回	呼吸器について	呼吸器の機能
21回	呼吸器について	フィードバックと確認
22回	泌尿器について	泌尿器の構造
23回	泌尿器について	泌尿器の機能
24回	泌尿器について	フィードバックと確認
25回	消化器について	消化器の構造
26回	消化器について	消化器の機能
27回	消化器について	フィードバックと確認
28回	内分泌系について	内分泌系の構造
29回	内分泌系について	内分泌系の機能
30回	内分泌系について	フィードバックと確認

成績評価	定期試験：筆記試験90% 提出物：10%	受講上のルール・留意点	後期はグループワークがメインとなるため他者に迷惑をかけないことを常に心がけること
------	-------------------------	-------------	--

課題やレポートに関するフィードバック		
FBは全体に実施する		

	書名	著書名	出版社名
教科書			
参考書			
オフィスアワー	メールでの連絡は随時 s-takase@nichireha.ac.jp		

科目	専門基礎医学演習Ⅰ	単位・時間数	2単位・ 30時間
担当講師	阿部靖、坂本 聡	学年	2年生 前期
実績経験	資格	学習塾で実施している学習方法を医学教育に必要な学習方法（思考法、読解力、思考力など）に置き換えて講義を行う。 理学療法士として、急性期～維持期のリハ・訪問リハ・デイケアにて積極的に治療を行ってきた実務経験を活かし、実例を交えながら講義を行う。	
	理学療法士		
授業の位置づけ	専門基礎医学演習Ⅰでは、臨床推論に基づく思考法、分析方法、統合と解釈について修得する。 1. 臨床推論について習得する。 2. 統合と解釈についてプロセスと方法を習得する。 この授業で習得した学習方法をPBLやOSCEに活用する。		
到達目標	臨床推論について理解を深め、実施できる		
授業形態	講義・演習	併用授業	

授業計画

回数	項目	講義内容
1回	臨床推論	思考の方法：概念
2回	臨床推論	思考の方法：概念
3回	臨床推論	思考の方法：種類
4回	臨床推論	思考の方法：種類
5回	臨床推論	思考の方法：ケーススタディ
6回	臨床推論	思考の方法：ケーススタディ
7回	臨床推論	思考の方法：ケーススタディ
8回	臨床推論	思考の方法：ケーススタディ
9回	臨床推論	クリニカルリーズニング：基礎
10回	臨床推論	クリニカルリーズニング：基礎
11回	臨床推論	クリニカルリーズニング：統合と解釈
12回	臨床推論	クリニカルリーズニング：統合と解釈
13回	臨床推論	クリニカルリーズニング：ケーススタディ
14回	臨床推論	クリニカルリーズニング：ケーススタディ
15回	臨床推論	クリニカルリーズニング：ケーススタディ

成績評価	定期試験：筆記試験100%	受講上のルール・留意点	グループワークがメインとなるため他者に迷惑をかけることを常に心がけること
------	---------------	-------------	--------------------------------------

課題やレポートに関するフィードバック

FBは全体に実施する

	書名	著書名	出版社名
教科書	なし		
参考書			
オフィスアワー	メールでの連絡は随時 y-abe@nichireha.ac.jp		

科 目	検査測定法Ⅲ	単位・時間数	1単位・ 45時間
担当講師	佐藤和世・鈴木雅男・塚本奈々子	学 年	2年生 前期
実績経験	資格	佐藤和世：実務経験18年 理学療法士として、急性期・回復期病院、療養型病床に勤務。実務経験を活かし実例を交えながら講義を行う。	
	理学療法士		
授業の位置づけ	この授業では主に中枢神経疾患に用いられる理学療法検査の特徴を理解し、説明できるようになることを目的とする。幅広い疾患に実践するために、疾患病巣の特徴を理解し、検査項目を選択できるようにする。 1年次の基礎科目との関連を理解しておく。解剖・生理・運動学の内容を踏まえて検査が実施されていくため、各科目の復習をしておくこと。 解		
到達目標	各検査の要項と実施方法を理解し、説明することができる。 各検査を状況に応じて実施することができる。		
授業形態	講義・演習・実習	対面授業	

授業計画

回数	項目	講義内容
1回	総論	各検査方法の概要と実際の説明
2回		
3回		
4回	脳神経検査	脳神経検査の検査要項と実施の方法を学ぶ
5回		
6回		
7回	反射・痛みの検査	反射・痛みの検査の検査要項と実施の方法を学ぶ
8回		
9回		
10回	筋緊張・協調性検査	筋緊張・協調性検査の検査要項と実施の方法を学ぶ
11回		
12回		
13回	麻痺検査	麻痺検査の検査要項と実施の方法を学ぶ
14回		
15回		
16回	姿勢反射検査	姿勢反射検査の検査要項と実施の方法を学ぶ
17回		
18回		
19回	バランス検査	バランス検査の検査要項と実施の方法を学ぶ
20回		
21回		
22回	高次脳機能検査	高次脳機能検査の検査要項と実施の方法を学ぶ
23回		

成績評価	筆記試験70% 小テスト30%	受講上のルール・留意点	動きやすい服装での参加
------	-----------------	-------------	-------------

課題やレポートに関するフィードバック

個別もしくは全体に必要なに応じてフィードバックを行う

	書名	著書名	出版社名
教科書	理学療法評価学 改訂第6版	松澤正 他	金原出版
参考書	図解 理学療法 検査・測定ガイド 第2版	奈良勲 内山靖 編集	文光堂
オフィスアワー			

科 目	検査測定法Ⅳ【整形・動作】	単位・時間数	1単位・30時間
担当講師	土手 延恭	学 年	2年生 前期
実績経験	資格	実務経験 18年 整形外科急性期・慢性期・外来リハ、通所リハ・訪問リハ・介護予防教室運営を経験、現在非常勤として整形外科クリニック・有料老人ホームでの臨床業務を行っている。その現場での実務経験を踏まえて講義・演習を行う。	
	理学療法士		
授業の位置づけ	<p>理学療法分野では、整形外科（運動器）疾患・脳血管疾患・呼吸器疾患・循環器疾患の患者が多い。この授業で扱う整形外科分野では、とりわけ「痛み」が原因で受診する患者が多い。整形外科医師も整形外科テストを行うが、医師の場合は診断に利用する。理学療法士の場合は、機能評価・理学療法の効果検証として行う側面が強い。</p> <p>整形外科疾患は、外傷でも非外傷でも起こりうるが、1年次に学んだ検査測定法Ⅰ・Ⅱと合わせて評価するとより状態の把握ができるようになる。</p> <p>臨床では、様々な疾患・症状をもつ患者様とお会いする。3年時の臨床実習Ⅰ以降、スムーズに現場で検査を行えるようオリエンテーションから演習していく。</p> <p>学生は1年次に解剖学・生理学・運動学といった専門基礎を学んでいる。その知識を復習しながら、整形外科テストを学び、関節可動域測定や徒手筋力検査、その他の評価と合わせて演習から体験していく。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 解剖学・生理学・運動学の知識から整形外科テストで何が分かるのか説明することができる。 2. 他の検査結果と合わせて考え、患者の状態を理解することができる。 3. 様々な基本動作を分析し、その機能障害を説明することができる。 		
授業形態	講義・演習	対面授業	

授業計画

回数	項目	講義内容
1回	姿勢分析①	演習：学生同士でお互いの逸脱所見を観察・記載
2回	頸部（1）	演習：頸部の整形外科テストを実施①
3回	頸部（2）	演習：頸部の整形外科テストを実施②
4回	肩関節（1）	演習：肩関節の整形外科テストを実施①
5回	肩関節（2）	演習：肩関節の整形外科テストを実施②
6回	肩関節（3）	演習：肩関節の整形外科テストを実施③
7回	肘・手関節	演習：肘・手関節の整形外科テストを実施
8回	胸腰椎	演習：胸腰椎の整形外科テストを実施
9回	股関節（1）	演習：股関節の整形外科テストを実施①
10回	股関節（2）	演習：股関節の整形外科テストを実施②
11回	膝関節（1）	演習：膝関節の整形外科テストを実施①
12回	膝関節（2）	演習：膝関節の整形外科テストを実施②
13回	足関節	演習：足関節の整形外科テストを実施
14回	骨盤（1）	演習：骨盤の整形外科テストを実施
15回	骨盤（2）バランス	骨盤の整形外科テスト・バランス検査を実施

成績評価	定期筆記試験80% 小テスト20% 合計100%	受講上のルール ・留意点	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業では毎回リフレクションシートの記載を課すので提出期日までに提出すること。 2. 実技では動きやすい服装（基本は短パン、Tシャツ）の準備をすること。その際に臨床業務に影響のある身だしなみはしないこと（アクセサリを外す、長い髪は束ねる等、その他必要に応じてアルコール消毒するなど感染予防に努めること）。
------	--------------------------------	-----------------	---

課題やレポートに関するフィードバック

実技演習に関しては、机間巡回中に行う。またリフレクションシートには、質問欄を設けているので、その記載に合わせてフィードバックを行う。疑問・質問に関しては、メールで随時対応、時間外にも対応する。

	書名	著書名	出版社名
教科書	病態動画から学ぶ 臨床整形外科テスト	吉田一也、隅元庸夫	HUMAN PRESS
参考書	写真で学ぶ 整形外科テスト法 増補改訂新版	ジョーゼフ・J・シプリアーノ	医道の日本社
オフィスアワー	研修日（火曜日）、午後から出勤（教員室滞在） メールでの連絡は随時 n-dote@nichireha.ac.jp	※その他、理学療法評価のテキスト参照	

科 目	PBLセミナーⅡ		単位・時間数	1単位・ 30時間
担当講師	木下 修 塚本奈々子 高橋 豊 PT教員		学 年	2年生 後期
実績経歴	資格	義肢装具士として41年、製作・適合判定に従事していました。 理学療法士として31年、総合病院（急性期・回復期）・クリニック・老健施設・特設・訪問・ディサービス・保健所・教育機関は大学・大学院などに従事していました。		
	理学療法士（31年） 義肢装具士（41年）			
授業の位置づけ	症例情報を基に今まで学んだ医学的基礎知識や理学療法評価の理解を深め、グループディスカッションや実技を通して自ら学んでいく。 患者の健康問題を見つけた後、全人的に理解する。人（ひと）を身体・心理・社会的立場など、あらゆる角度から理解することは患者中心の考え方の根幹となる。チーム内の役割を明確にし、自ら積極的に行動し、症例から患者の抱える問題の解決に向けて取り組む。最後は、症例情報からの学びをまとめ、グループ発表を行う。これらの過程で理学療法士の臨床思考を身につけていくことを目的とする。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 症例情報から必要となる評価項目を選択できる。 2. 評価情報から問題点をICFにまとめ、ゴール設定、プログラムの立案ができる。 3. 1年次、2年次で学んだことを通して、患者の身体・心理・社会生活を総合的に理解する。 			
授業形態	講義・演習・実習		対面授業	

授業計画

回数	項目	講義内容
1回	オリエンテーション	授業の目的と実施内容について
2回	症例情報の整理と理解	症例情報を整理し、全体像をまとめる
3回	症例情報の整理と理解	症例情報を整理し、全体像をまとめる
4回	症例情報の整理と理解	症例情報を整理し、全体像をまとめる
5回	理学療法評価	必要な理学療法評価を選択
6回	理学療法評価	理学療法評価 実践
7回	理学療法評価	理学療法評価 実践
8回	理学療法評価	理学療法評価 実践
9回	症例情報のまとめ	問題点をICFにまとめる
10回	症例情報のまとめ	評価結果からゴール設定、プログラム立案を行う
11回	症例情報のまとめ	評価結果からゴール設定、プログラム立案を行う
12回	症例情報のまとめ	発表準備
13回	症例発表	まとめた内容を発表
14回	症例発表	まとめた内容を発表
15回	症例解説、フィードバック	症例について解説、演習についてよかった点や今後の課題を整理する

成績評価	授業内発表：50% 課題提出：50%	受講上のルール・留意点	授業中は私語を謹んで授業に集中する。 グループワーク課題は積極的に行う。
------	-----------------------	-------------	---

課題やレポートに関するフィードバック

フィードバックは全体に行う。

	書名	著書名	出版社名
教科書	なし		
参考書			
オフィスアワー	授業時間以外で質問のある場合には、事前にメールで予約をしてください。 Mail: o-kinoshita@nichireha.ac.jp		

科 目	物理療法 I		単位・時間数	1単位・ 30時間
担当講師	篠田良平 高林礼子		学 年	2年生 前期
実績経験	資格	篠田良平 実務経験28年 理学療法士として回復期病院、総合病院、教育機関に常勤として勤務。実務経験を活かし実例を交えながら講義を行う。 高林礼子 実務経験25年 急性期病院、特養、通所、訪問などに勤務。教育機関に常勤として勤務。実務経験を活かして講義を行う。		
	理学療法士			
授業の位置づけ	PT (Physical Therapist) の語源となった学問である。物理エネルギーを人体に作用させた生理的反応を治療に用いる。代表的な治療として温熱、寒冷、電気、光線、牽引等があるが、それぞれの属性により使い方があり、それを誤ると事故にもつながるので明確に禁忌が提示されている。基本的な使用法と禁忌を学びながら科学的実験の要素を取入れ、物理エネルギーの特性を目で確認して理解を深めていく。 授業方法はプリント・パワーポイントを主とした講義形式。治療機器の体験演習では機器を使用する場面を見せながら、実際に自分でも体験する。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ○物理的エネルギーの種類と人体に及ぼす効果を理解する。 ○各治療法の禁忌を理解し覚える。 ○各治療法を自分で体験する。 			
授業形態	講義・演習		対面授業	

授業計画

回数	項目	講義内容
1回	物理療法の概念	物理療法の概念、効果と目的
2回	温熱療法	温熱療法の生理的効果、熱伝導を用いた治療法と禁忌
3回	温熱療法	放射熱を用いた治療法と禁忌
4回	温熱療法	エネルギー変換熱を用いた治療法と禁忌
5回	寒冷療法	寒冷療法の生理的効果
6回	寒冷療法	寒冷を用いた治療法と禁忌
7回	水治療法	水治療法の使用と禁忌
8回	温熱寒冷療法	治療機器の操作と体験
9回	電気療法	電気療法の生理的効果、通電による治療法と禁忌
10回	電気療法	FESとTESの臨床適応
11回	電気療法	骨電気療法の使用と禁忌
12回	光線療法	紫外線・レーザー療法の使用と禁忌
13回	牽引療法	頸椎牽引と腰椎牽引の使用と禁忌
14回	CPM	CPMの効果と各関節毎の違い
15回	バイオフィードバック	バイオフィードバック療法の原理と利用方法

成績評価	定期試験：筆記試験100%	受講上のルール・留意点	授業中は私語を謹んで授業に集中する。
------	---------------	-------------	--------------------

課題やレポートに関するフィードバック

フィードバックは全体に行う。

教科書	書名 物理療法学	著書名 吉田英樹	出版社名 メジカルビュー
参考書	生理学	真嶋英信	文光堂
オフィスアワー	担当授業の前後		

科目	日常生活活動学Ⅱ		単位・時間数	1単位・ 30時間
担当講師	鍋城 武志、中村 信、高林 礼子、高橋 豊		学年	2年生 前期
実績経験	資格	<ul style="list-style-type: none"> ・鍋城 武志 実務経験20年 急性期病院、教育機関に常勤として勤務。実務経験を活かし実例を交えながら講義を行う。 ・中村 信 実務経験21年 理学療法士として、病院・クリニック・特養・老健・訪問リハ・高齢者デイケア・重身デイサービス・教育機関にて培った経験を活かし、実例を交えながら講義を行う。 ・高林 礼子 実務経験25年 急性期病院、特養、通所、訪問などに勤務。教育機関に常勤として勤務。実務経験を活かし講義を行う。 ・高橋 豊 実務経験10年 介護老人保健施設・訪問リハビリテーション・デイケア・デイサービスにて勤務。実務経験を活かし、実例を交えながら講義を行う。 		
	理学療法士			
授業の位置づけ	<p>人と向かい合うことを基本としている理学療法において、日常生活活動（ADL）は運動療法とともに大きな領域を占めている。寝返りや座位といった基本動作のほかに、生命維持のための食事、更衣、排泄などの身辺動作（セルフケア）、社会性を維持するために必要となる、交通機関の利用、コミュニケーションなどを含めたADLの評価と指導が広く行われている。この授業では、臨床現場でリハビリの対象となりうる代表的な疾患に対して、各々の疾患の特徴を確認しながらADL指導・介助方法を学ぶ。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 代表的疾患に対するADL指導、介助法を理解する。 2. 代表的疾患に対するADL訓練・指導ができる。 3. 在宅復帰に向けたADL指導が考えられる。 			
授業形態	講義・演習		併用授業	

授業計画

回数	項目	講義内容
1回	ガイダンス	ADLについて、セルフケア、起居移乗動作について
2回	疾患別ADL指導（骨・関節）	下肢疾患に対するADLアプローチ
3回	疾患別ADL指導（骨・関節）	下肢疾患に対するADLアプローチ
4回	疾患別ADL指導（骨・関節）	上肢疾患に対するADLアプローチ
5回	疾患別ADL指導（中枢）	片麻痺に対するADLアプローチ
6回	疾患別ADL指導（中枢）	片麻痺に対するADLアプローチ
7回	疾患別ADL指導（中枢）	パーキンソン病に対するADLアプローチ
8回	疾患別ADL指導（中枢）	筋ジストロフィー、筋萎縮性側索硬化症に対するADLアプローチ
9回	疾患別ADL指導（中枢）	脊髄損傷、脳性麻痺に対するADLアプローチ
10回	疾患別ADL指導（中枢）	脊髄損傷、脳性麻痺に対するADLアプローチ
11回	疾患別ADL 「視力障がい」	障がいの特徴、白杖の役割
12回	疾患別ADL 「その他の疾患」	リウマチ、内部障害、高齢者などに対するADLアプローチ
13回	疾患別ADL 「その他の疾患」	リウマチ、内部障害、高齢者などに対するADLアプローチ
14回	在宅復帰に向けたADL指導	退院・退所に向けた指導・評価のポイント
15回	在宅生活のADL	在宅でのADL指導の留意点

成績評価	定期試験： 筆記試験（80%） レポート（20%）	受講上のルール・留意点	授業中は私語を謹んで授業に集中する。 実技では動きやすい服装を準備する。また空いた時間は繰り返し復習する。
------	---------------------------------	-------------	--

課題やレポートに関するフィードバック

フィードバックは全体に行う。

	書名	著書名	出版社名
教科書	標準理学療法学 日常生活活動学・生活環境学 第5版	鶴見隆正、隆島研吾編集	医学書院
参考書	日常生活活動 第2版	千住秀明監修	神陵文庫
オフィスアワー	担当授業の前後		

科 目	疾患別理学療法 I A (整形外科)		単位・時間数	1単位・ 30時間
担当講師	木下 修 土手延恭 塚本奈々子		学 年	2年生 後期
実績経験	資格	義肢装具士として41年、製作・適合判定に従事していました。 理学療法士として31年、総合病院(急性期・回復期)・クリニック・老健施設・特養・訪問・ディサービス・保健所・教育機関は大学・大学院などに従事していました。		
	理学療法士 (31年) 義肢装具士 (41年)			
授業の位置づけ	整形外科疾患は病態が骨、関節、筋・腱などにあり、直接的に運動・動作に影響を及ぼすため、機能改善、社会復帰のためにはリハビリテーションが担う役割は大きい。また、変性や外傷により神経にも影響を及ぼす場合、運動・感覚麻痺への対応もする必要があり、病態と症状の把握には十分な理解が求められる。そのため、疾患の特徴と運動器障害に対する理学療法の評価・治療について演習を通して説明・解説・実技指導する。2年次で学ぶ検査・測定法の応用や周術期におけるリハビリテーションの流れと対応、時期に応じた介入方法について説明する。 授業方法は講義が30%、実技演習が70%である。			
到達目標	整形外科疾患における組織再生・修復過程について、各疾患の病態を理解し、説明できる。 各疾患(上肢・脊椎疾患、脊髄損傷)における主要な問題を理解し、評価と治療を考えることができる。 疾患別における動作の特徴を捉え、それを表現できる。 整形外科疾患の特徴を理解し、日常生活の支援について説明する。			
授業形態	講義・演習		併用授業	

授業計画

回数	項目	講義内容
1回	総論	運動器の運動療法とは
2回	運動療法の基礎	運動療法の技術的基礎
3回	運動器損傷の評価	評価と治療の原則
4回	末梢神経障害	末梢神経の構造と評価、治療
5回	肩関節と肩甲骨	関節運動の基礎と評価
6回	肩関節と肩甲骨	関節運動の評価と治療
7回	肘関節・手関節	関節運動の基礎と評価
8回	肘関節・手関節	関節運動の基礎と治療
9回	頭頸部	関節運動の基礎
10回	胸椎と胸郭	関節運動の基礎
11回	胸椎と胸郭	関節の評価と治療
12回	脊髄損傷	脊髄損傷の病理、評価、ADL
13回	脊髄損傷	脊髄損傷の床上動作(演習)
14回	脊髄損傷	脊髄損傷の移乗動作(演習)
15回	脊髄損傷	脊髄損傷の移動(演習)

成績評価	授業の小テスト 課題レポート	受講上のルール・留意点	動きやすい服装(半袖、短パン)、観察しやすい服装を用意ください。 ジーパンや体の線が見にくい服装は控えてください。お互いの身体を利用しながら学習をおこないますので、互いに気遣いましょう。
------	-------------------	-------------	--

課題やレポートに関するフィードバック

レポート課題は、授業中全体に対しフィードバックし、レポートは個別に対応する。

	書名	著書名	出版社名
教科書	運動器の運動療法	小柳磨敏	羊土社
参考書	基礎運動学第6版	中村隆一	医歯薬出版
オフィスアワー	授業時間以外で質問のある場合には、事前にメールで予約をしてください。 Mail: o-kinoshita@nichireha.ac.jp		

科目	疾患別理学療法Ⅰ-B【整形】		単位・時間数	1単位・30時間
担当講師	木下 修 土手延恭 高橋 豊		学年	2年生 後期
実績経験	資格	義肢装具士として41年、製作・適合判定に従事していました。 理学療法士として31年、総合病院（急性期・回復期）・クリニック・老健施設・特養・訪問・ディサービス・保健所・教育機関は大学・大学院などに従事していました。		
	理学療法士（31年） 義肢装具士（41年）			
授業の位置づけ	整形外科の病態（疾患・脳血管疾患・呼吸器疾患・循環器疾患）に対する評価・治療の方法を学習する。外傷・非外傷、仕事や生活の仕方が原因など、急性期・慢性期、年齢層も幼少期から高齢者まで様々な問題が起こる。整形外科分野の下肢の疾患に対する講義と演習を行う。体の変化を知るために、学生同士で演習を中心に行う。後半には、症例を通してPBL（problem based learning）をグループワークで行い、発表する。後半には、症例を通してPBL（problem based learning）をグループワークで行い、発表する。臨床現場では、申し送りやケースカンファレンスなど、「チーム医療」の中で理学療法の進捗状況などをアウトプットする必要がある。発表を通して、臨床に即した体験をする。学生は1年次に解剖学・生理学・運動学といった専門基礎を学んでいる。その知識を復習しながら、運動器疾患に関連する理学療法を学び、演習から体験していく。			
到達目標	1. 下肢に起こりやすい解剖学・運動学的な問題を理解し、説明することができる。 2. 整形外科疾患によって生じる機能障害とその評価について説明できる。 3. 代表的な整形外科疾患に対し問題点を抽出し、理学療法の評価と治療につなげて説明できる。 4. 発表を通して検査結果から問題点を抽出し、問題点に関連した理学療法を説明することができる。			
授業形態	講義・演習		対面授業	

授業計画

回数	項目	講義内容
1回	足関節・足部（1）	姿勢動作分析・足部および足関節評価・足部癒着の改善演習
2回	足関節・足部（2）	姿勢動作分析・足部および足関節評価・足部周囲筋力強化演習
3回	足関節・足部（3）	姿勢動作分析・股関節評価復習
4回	股関節（1）	姿勢動作分析・股関節評価・股関節周囲の癒着改善演習
5回	股関節（2）	姿勢動作分析・股関節評価・股関節周囲の筋力強化演習
6回	股関節（3）	姿勢動作分析・股関節評価復習
7回	膝関節（1）	姿勢動作分析・膝関節評価・膝関節周囲癒着改善演習
8回	膝関節（2）	姿勢動作分析・膝関節評価・膝関節周囲筋力強化演習
9回	膝関節（3）	姿勢動作分析・膝関節評価復習
10回	症例検討（1）	グループワーク・発表準備（1）
11回	症例検討（2）	グループワーク・発表準備（2）
12回	症例検討（3）	グループワーク・発表準備（3）
13回	発表（1）	発表10分、質疑応答5分で全グループの発表を行う（前半5グループ）
14回	発表（2）	発表10分、質疑応答5分で全グループの発表を行う（後半5グループ）
15回	総復習	症例説明（フィードバック）

成績評価	定期筆記試験 80% 発表 10% レポート課題 10% 合計 100%	受講上のルール・留意点	1. 授業では毎回リフレクションシートの記載を課すので提出期日までに提出すること。 2. 実技では動きやすい服装（基本は短パン、Tシャツ）かケーシーを着用すること。その際に臨床業務に影響のある身だしなみはしないこと（アクセサリーを外す、長い髪は束ねる等、その他必要に応じてアルコール消毒するなど感染予防に努めること）。
------	---	-------------	--

課題やレポートに関するフィードバック

実技演習に関しては、机間巡回中に行う。またリフレクションシートには、質問欄を設けているので、その記載に合わせてフィードバックを行う。疑問・質問に関しては、メールで随時対応、時間外にも対応する。

	書名	著書名	出版社名
教科書	局外 身からアプローチする 運動器の理学療法	編集 小柳磨毅, 中江徳彦, 井上悟	羊土社
参考書	基礎運動学第6版	中村隆一	医歯薬出版
オフィスアワー	授業時間以外で質問のある場合には、事前にメールで予約をしてください。 Mail: o-kinoshita@nichireha.ac.jp		

科目	疾患別理学療法Ⅱ-A【中枢】	単位・時間数	1単位・ 30時間
担当講師	佐藤和世	学年	2年生 後期
実績経験	資格	佐藤和世；実務経験18年 理学療法士として、急性期・回復期病院、療養型病床に勤務。実務経験を活かし実例を交えながら講義を行う。	
	理学療法士		
授業の位置づけ	この授業では、中枢神経疾患における片麻痺患者の理学療法について学習する。片麻痺患者は脳血管障害によるものが多く、「脳卒中治療のガイドライン」においても急性期から回復期、維持期に渡って多職種による包括的リハビリテーションが推奨されている。その中で理学療法士が果たす役割は重要であるが、アプローチ理論が完成されていないのが現状である。したがってこの授業では基本的なアプローチ方法に触れ、脳卒中片麻痺患者への理学療法の全体像をとらえることを目的とする。 以下の内容を理解する。 1. 脳卒中片麻痺患者の基本的な障害像 2. 急性期、回復期、維持期の理学療法		
到達目標	1. 脳卒中片麻痺患者の病態を説明できる。 2. 麻痺の回復と神経系・脳の可塑性について説明できる。 3. 急性期、回復期、維持期の各期の理学療法の目的と方法について説明できる。 4. リハビリテーション医療における安全管理・推進のためのガイドラインに基づきリスク管理ができる。 5. 痙性に対する理学療法を説明できる。 6. 片麻痺患者の合併症について説明できる。 7. 脳卒中のCT、MRI画像を判読できる。		
授業形態	講義、実習	対面授業	

授業計画

回数	項目	講義内容
1回	病態	中枢神経疾患の病態、運動麻痺と伝導路、陽性兆候と陰性兆候
2回	麻痺の回復	神経系・脳の可塑性と麻痺の回復メカニズム
3回	急性期	目的、リスク管理とガイドライン
4回	急性期	ポジショニング、関節可動域練習、ギャッジアップから離床
5回	急性期	片麻痺体験、関節可動域練習の注意点（肩・股）
6回	回復期	痙性に対するアプローチ、治療の原則
7回	回復期	随意運動の促通（上肢、下肢）、体幹筋の促通
8回	回復期	寝返り、起き上がり、座位バランス練習
9回	回復期	立ち上がり、立位バランス、片脚立位練習
10回	回復期	歩行練習と異常歩行
11回	維持期	身体機能・能力の自己管理方法
12回	合併症	拘縮、異所性骨化、肩手症候群、CRPS
13回	合併症	起立性低血圧、肩関節亜脱臼、プッシャー症候群、嚥下障害
14回	評価	SIASほか
15回	画像	CT、MRI画像の判読

成績評価	筆記試験（100％）	受講上のルール・留意点	実技に際しては動きやすい服装で参加する
------	------------	-------------	---------------------

課題やレポートに関するフィードバック

個別もしくは全体に必要に応じてフィードバックを行う

	書名	著書名	出版社名
教科書	神経障害理学療法学Ⅰ 第2版	責任編集：大畑光司（京都大学） 総編集：石川 朗（神戸大学）	中山書店
参考書	病気が見える⑦ 脳・神経	医療情報科学研究所	メディックメディア
オフィスアワー			

科目	疾患別理学療法Ⅱ－B（高齢者）		単位・時間数	1単位・15時間
担当講師	白杵 寛、中村 信		学年	2年生 後期
実績経験	資格	白杵：実務経験21年（病院、老健、通所、訪問、予防事業等）の経験を踏まえ、実例を交えながら講義を行う。		
	理学療法士	中村：実務経験21年 理学療法士として、病院・クリニック・特養・老健・訪問リハ・高齢者デイケア・重身デイサービス・教育機関にて培った経験を活かし、実例を交えながら講義を行う。		
授業の位置づけ	わが国では急速に高齢化が進み、高齢者が理学療法の対象となる頻度も多くなっている。高齢者に対する理学療法を実践する上で高齢者の特徴の理解や必要な評価、トレーニングの理論などに重きを置いて授業を進める。実例などを交え、具体的なアプローチなどを学ぶ。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者の特徴を理解し、説明できる。 2. 高齢者に対する機能評価を理解し、説明できる。 3. 高齢者に対する理学療法とそのエビデンスを理解し効果的な関わり方を理解する。 			
授業形態	講義、演習			

授業計画

回数	項目	講義内容
1回	総論 高齢者の特徴	高齢者の基礎、老年症候群、フレイルとサルコペニア、認知症、転倒など
2回	総論 心身機能の変化	生理的变化、体力や姿勢の変化、精神心理・認知機能の変化など
3回	各論 高齢者の機能評価①	身体機能、生活活動能力評価、生活機能評価
4回	各論 高齢者の機能評価②	認知機能や精神・心理機能評価、QOL・社会活動の評価
5回	各論 高齢者に対する理学療法①	筋力、バランストレーニングについて
6回	各論 高齢者に対する理学療法②	持久力・歩行トレーニング、身体活動促進に対するアプローチ
7回	各論 高齢者に対する理学療法③	転倒・骨折予防、認知症予防
8回	各論 高齢者に対する運動とエビデンス	筋力トレーニングや歩行などに関するエビデンスの理解

成績評価	筆記試験60% 授業中小テスト40%	受講上のルール・留意点	授業内容の復習を行うこと
------	-----------------------	-------------	--------------

課題やレポートに関するフィードバック	
適宜、全体及び個人へ行う	

	書名	著書名	出版社名
教科書			
参考書	Crosslink 理学療法学テキスト 高齢者理学療法学	編集：池添冬芽	メジカルビュー社
オフィスアワー	白杵：授業前後及びメール(h-usuki@nichireha.ac.jp) 中村：授業前後及びメール(shin-nakamura@nichireha.ac.jp)		

科目	疾患別理学療法ⅢA	単位・時間数	1単位・30時間
担当講師	塚本 奈々子、高林 礼子	学年	2年生 後期
実績経験	資格	塚本 奈々子 実務経験 18年 理学療法士として、総合病院・訪問リハ・デイケアにて治療を行ってきた実務経験を話し、事例を交えながら講義を行う。	
	理学療法士		
授業の位置づけ	この授業では、神経筋疾患の中でもいわゆる“難病”といわれる疾患の理学療法について学習をする。“難病”は原因が不明で治療法が確立されておらず、長期の療養を必要とすることが多い。しかし適切な対応により症状を安定させ日常生活を送ることが可能な人もおり、その際には理学療法の介入も必要とされる。同じ疾患でも病気や個人により症状は様々であり、単なる知識の暗記だけではなく状況に応じて評価や治療を選択することが求められる。 授業の流れ ○疾患について復習 ○理学療法について学習 ○症例検討		
到達目標	疾患の特徴を理解し、説明することができる。 症例に対し、適切な評価・治療プログラムの立案ができる。		
授業形態	講義	対面授業	

授業計画

回数	項目	講義内容
1回	総論 筋萎縮性側索硬化症の概要	授業の目的、病態確認
2回	筋萎縮性側索硬化症の理学療法	リスク管理、評価、治療、ADL指導について
3回	筋萎縮性側索硬化症の理学療法	症例検討（評価項目の選択、治療プログラムの立案など）
4回	筋萎縮性側索硬化症の理学療法	症例検討（前回の続き）
5回	脊髄小脳変性症の概要	病態確認
6回	脊髄小脳変性症の理学療法	リスク管理、評価、治療、ADL指導について
7回	脊髄小脳変性症の理学療法	症例検討（評価項目の選択、治療プログラムの立案など）
8回	脊髄小脳変性症の理学療法	症例検討（前回の続き）
9回	パーキンソン病の概要	病態確認
10回	パーキンソン病の理学療法	リスク管理、評価、治療、ADL指導について
11回	パーキンソン病の理学療法	症例検討（評価項目の選択、治療プログラムの立案など）
12回	パーキンソン病の理学療法	症例検討（前回の続き）
13回	重症筋無力症の理学療法	病態確認
14回	重症筋無力症の理学療法	リスク管理、評価、治療、ADL指導について
15回	総括	復習

成績評価	筆記試験100%	受講上のルール・留意点	症例検討ではディスカッションを行います。活発な意見を求めます。
------	----------	-------------	---------------------------------

課題やレポートに関するフィードバック

必要に応じて、授業内で全体に行っていきます。

	書名	著書名	出版社名
教科書	1. 神経障害系理学療法学 2. 病気がみえる⑦脳・神経	丸山仁司 編	医歯薬出版 MEDIC MIDIA
参考書			
オフィスアワー	質問は基本的に対面で、授業前後に声をかけてください		

科目	疾患別理学療法ⅢB	単位・時間数	1単位・30時間
担当講師	塚本 奈々子、佐藤 和世	学年	2年生 後期
実績経験	資格	塚本 奈々子 実務経験 18年 理学療法士として、総合病院、訪問リハ、デイケア、教育機関に勤務。 実務経験を活かし、実例を交えながら講義を行う。	
	理学療法士		

授業の位置づけ	この授業では、神経筋疾患の中でもいわゆる“難病”といわれる疾患の理学療法について学習をする。“難病”は原因が不明で治療法が確立されておらず、長期の療養を必要とすることが多い。しかし適切な対応により症状を安定させ日常生活を送ることが可能な人もおり、その際には理学療法の介入も必要とされる。 同じ疾患でも病気や個人により症状は様々であり、単なる知識の暗記だけではなく状況に応じて評価や治療を選択することが求められる。		
到達目標	疾患の特徴を理解し、説明することができる。 症例に対し、適切な評価・治療プログラムの立案ができる。		
授業形態	講義	遠隔授業	

授業計画

回数	項目	講義内容
1回	多発性硬化症の概要	病態確認
2回	多発性硬化症の理学療法	リスク管理、評価、治療、ADL指導について
3回	多発性硬化症の理学療法	症例検討（評価項目の選択、治療プログラムの立案など）
4回	多発性硬化症の理学療法	症例検討（前回の続き）
5回	ギランバレー症候群の概要	病態確認
6回	ギランバレー症候群の理学療法	リスク管理、評価、治療、ADL指導について
7回	ギランバレー症候群の理学療法	症例検討（評価項目の選択、治療プログラムの立案など）
8回	ギランバレー症候群の理学療法	症例検討（前回の続き）
9回	多発性筋炎・皮膚筋炎の概要	病態確認
10回	多発性筋炎・皮膚筋炎の理学療法	リスク管理、評価、治療、ADL指導について
11回	多発性筋炎・皮膚筋炎の理学療法	症例検討（評価項目の選択、治療プログラムの立案など）
12回	多発性筋炎・皮膚筋炎の理学療法	症例検討（前回の続き）
13回	筋ジストロフィーの理学療法	病態確認
14回	筋ジストロフィーの理学療法	リスク管理、評価、治療、ADL指導について
15回	総括	復習

成績評価	定期試験：筆記試験100%	受講上のルール・留意点	症例検討ではディスカッションを行います が、活発な意見を求めます。
------	---------------	-------------	--------------------------------------

課題やレポートに関するフィードバック

必要に応じて、授業内で全体に行っていきます。

	書名	著書名	出版社名
教科書	1. 神経障害系理学療法学 2. 病気がみえる⑦脳・神経	丸山仁司 編	医歯薬出版
参考書			
オフィスアワー			

科 目	疾患別理学療法ⅣA（呼吸）		単位・時間数	1単位・30時間
担当講師	鍋城 武志、塩澤 和人		学 年	2年生 後期
実績経験	資格	鍋城 武志 実務経験 20年 理学療法士として、急性期病院、教育機関に常勤として勤務。実務経験を活かし実例を交えながら講義を行う。		
	理学療法士	塩澤 和人 実務経験 16年 理学療法士として、回復期病院、急性期病院、デイサービス、障害者福祉施設、介護予防事業、教育機関に携わった実務経験を活かし、実例を交えながら講義を行う。		
授業の位置づけ	<p>人口構造の高齢化に伴う呼吸器疾患患者の増加は世界的規模である。慢性閉塞性肺疾患は死亡原因の第3位である。呼吸リハビリテーションは多くのエビデンスが集積され、特に運動療法の継続が重要視されている。本授業では呼吸器疾患の理学療法ができるようになるために、呼吸器疾患の病態、評価、理学療法について実技を交えて解説する。</p> <p>授業方法は「講義」「実技」を予定している。</p> <p>呼吸器に関する解剖学、生理学を理解しておくことが望ましい。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 呼吸器疾患の病態を説明できる。 2. 呼吸器疾患に必要な評価項目を列挙できる。 3. 呼吸器疾患の理学療法ができる。 			
授業形態	講義・演習		併用授業	

授業計画

回数	項目	講義内容
1回	呼吸リハビリテーションとは	呼吸リハビリテーションの歴史、適応
2回	呼吸器基礎①	呼吸器の解剖学・生理学・運動学・病態
3回	呼吸器基礎②	呼吸器の解剖学・生理学・運動学・病態
4回	呼吸機能検査	スパイログラム、フローボリューム曲線、胸部X線
5回	フィジカルアセスメント①	視診・問診・触診・打診・聴診
6回	フィジカルアセスメント②	6分間歩行テスト、Shuttle Walking Test、ADL・QOL評価
7回	呼吸理学療法①	コンディショニング、運動療法、ADL指導
8回	呼吸理学療法②	コンディショニング、運動療法、ADL指導
9回	酸素療法	酸素療法の種類、在宅酸素療法
10回	人工呼吸器	種類、構造、換気モード、病態
11回	急性期の呼吸リハビリテーション	周術期呼吸リハビリテーション、人工呼吸器管理での呼吸リハビリテーション
12回	安定期の呼吸リハビリテーション	COPD患者に対する呼吸リハビリテーション
13回	吸引①	意義、感染対策と実技
14回	吸引②	吸引実技
15回	総まとめ	まとめ

成績評価	筆記試験100%	受講上のルール・留意点	実技では動きやすい服装の準備をすること。 上衣はTシャツ等が好ましい
------	----------	-------------	---------------------------------------

課題やレポートに関するフィードバック

実技に関するフィードバックは実技練習中、練習の後、個別または全体に対して適宜実施する。

	書名	著書名	出版社名
教科書	15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 内部障害理学療法学 呼吸 第3版	石川朗 総編集	中山書店
参考書	リハビリテーションに活かす呼吸・循環モニタリング モニター心電図から生体情報を読み解く	美津島 隆、山内 克哉 監修	メジカルビュー社
オフィスアワー	担当授業の前後		

科目	疾患別理学療法IVB（循環代謝）	単位・時間数	1単位・ 30時間
担当講師	高瀬 慎輔 塩澤 和人	学 年	2年生 後期
実績経験	資格	理学療法士として、回復期病棟、急性期病院、デイサービス、障害者福祉施設、介護予防事業、訪問リハ、教育機関に携わった実務経験を活かし、実例を交えながら講義を行う。	
	理学療法士		

授業の位置づけ	<p>内部障害（呼吸・循環・代謝障害）者は外部からは障害があることがわかりにくい（いわゆる“見えない障害”）ため、周囲の理解が得られにくいという不利益を受けやすい。理学療法では、いかにしたらできるようになるかという障害学的分析に加えて、なぜそのような状態なのか、その症状や症候はどこから来ているのか、医学的情報を収集し、病態生理を理解する症候学的分析も重要である。「症状の正しい観察」こそが臨床理学療法の第一歩であり、観察を通じた患者の理解こそが内部障害理学療法の最大の醍醐味でもある。</p> <p>本授業では、循環代謝障害に対する理学療法について、病態の理解、評価、理学療法等を解説する。授業方法は、「講義」「ケーススタディ」「ディスカッション」「グループ発表」で構成される。循環器系の解剖と生理の概要を理解しておくこと。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各疾患の病態を説明し、評価、理学療法、リスク管理、患者教育ができる。 2. 心電図をみて、不整脈の種類とリスク管理を説明できる。 3. 適切な運動強度を接敵できる。 		
授業形態	講義・演習	対面授業	

授業計画

回数	項目	講義内容
1回	心リハの概要	目的、効果、対象疾患、循環器系の解剖と生理
2回	起立性低血圧	発症機序と対応・予防
3回	虚血性心疾患①	心不全のメカニズムと症状・リスク管理
4回	虚血性心疾患②	心疾患の理学療法
5回	不整脈と心電図①	心電図の基本事項、刺激伝導系
6回	不整脈と心電図②	正常洞調律の波形の理解
7回	不整脈と心電図③	心房細動、心房粗動、期外収縮
8回	不整脈と心電図④	重症不整脈、ブロック波形
9回	不整脈と心電図⑤	虚血と梗塞
10回	代謝疾患①	評価、低血糖のリスク管理等
11回	代謝疾患②	糖尿病の病態と合併症
12回	代謝疾患③	運動療法
13回	代謝疾患④	食事療法
14回	代謝疾患⑤	薬物療法
15回	代謝疾患⑥	療養指導

成績評価	筆記試験90% 小テスト10%	受講上のルール・留意点	授業中の説明を良く聞き、理解を深める
------	--------------------	-------------	--------------------

課題やレポートに関するフィードバック

FBは全体に実施する

	書名	著書名	出版社名
教科書			
参考書			
オフィスアワー	メールでの連絡は随時 s-takase@nichireha.ac.jp		

科目	理学療法技術論 I		単位・時間数	1単位・ 30時間
担当講師	橋本 悠太		学 年	2年生・後期
実績経験	資格	実務経験 医療機関 12年		
	理学療法士	「理学療法士として運動器・整形外科疾患に対して行ってきた実務経験を活かし臨床での実践例を踏まえ講義を行う」		
授業の位置づけ	関節系の治療は運動器・整形外科疾患に限らず、全ての分野の理学療法で重要な治療手技として扱われてきた。理学療法士として関節の構造を理解し、治療手技として応用していくことは臨床で必要不可欠である。この授業では講義形式で進めていくが、実技も交えながら臨床現場で役立つ実践的な内容を多く含んだ授業となる			
到達目標	関節系に対する治療手技について、基本的構造や関節機能異常など基礎学習と評価、手技の習得を学ぶ。			
授業形態	「講義・演習」		「対面授業」	

授業計画

回数	項目	講義内容
1回	関節系の治療手技体系	構造と生理
2回	関節系の基礎解剖と運動生理	上肢、下肢、体感の関節運動学
3回	関節系の基礎解剖と運動生理	関節の副運動
4回	関節モビライゼーション①	関節機能異常の評価と治療手技
5回	関節モビライゼーション②	足部・足関節のモビライゼーション（基礎）
6回	関節モビライゼーション③	足部・足関節のモビライゼーション（応用）
7回	関節モビライゼーション④	膝関節のモビライゼーション（基礎）
8回	関節モビライゼーション⑤	膝関節のモビライゼーション（応用）
9回	関節モビライゼーション⑥	股関節のモビライゼーション（基礎）
10回	関節モビライゼーション⑦	股関節のモビライゼーション（応用）
11回	関節モビライゼーション⑧	脊柱のモビライゼーション（基礎）
12回	関節モビライゼーション⑨	脊柱のモビライゼーション（応用）
13回	関節モビライゼーション⑩	上肢のモビライゼーション（基礎）
14回	関節モビライゼーション⑪	上肢のモビライゼーション（応用）
15回	総合演習	まとめ

成績評価	授業態度20% 授業内課題20% レポート60%	受講上のルール・留意点	授業時間数の3分の1以上欠席したものには単位を与えない レポートは1回実施し、関節系理学療法について課されたテーマに対してA4レポート用紙1枚以上、文字数800字～1000字程度とする また毎週、授業内課題を実施し、各授業における理解度を評価する
------	--------------------------------	-------------	---

課題やレポートに関するフィードバック

FBは全体に実施する

	書名	著書名	出版社名
教科書			
参考書			
オフィスアワー			

科目	理学療法技術論Ⅳ		単位・時間数	1単位・ 30時間
担当講師	水口 健一		学年	2年生 後期
実績経験	資格	現在も施設勤務にて、治療経験を活かした授業を行っていきたい		
	理学療法士			
授業の位置づけ	臨床セミナーの一環として、臨床的に使われるPNFの手技について実技を中心に理解する			
到達目標	運動療法 PNF を理解する			
授業形態	講義及び演習		対面	

授業計画

回数	項目	講義内容
1回	PNF (1)	総論
2回	PNF (2)	肩甲帯の基礎パターン
3回	PNF (3)	骨盤帯の基礎パターン
4回	PNF (4)	上肢の基礎パターン
5回	PNF (5)	上肢の基礎パターン
6回	PNF (6)	下肢の基礎パターン
7回	PNF (7)	下肢の基礎パターン
8回	PNF (8)	頸部体幹のパターン
9回	PNF (9)	特殊テクニック
10回	PNF (10)	特殊テクニック
11回	PNF (11)	マット動作でのPNF
12回	PNF (12)	マット動作でのPNF
13回	PNF (13)	歩行訓練とPNF
14回	PNF (14)	歩行訓練とPNF
15回	PNF (15)	呼吸とPNF

成績評価	筆記または実技試験	受講上のルール・留意点	授業時間数の3分の1を超えて欠席した者には単位を与えない
------	-----------	-------------	------------------------------

課題やレポートに関するフィードバック

	書名	著書名	出版社名
教科書	PNFハンドブック 柳澤健 他訳 丸善出版(株)		
参考書	PNFコンセプト 監訳 市川繁之 ガイアブックス		
オフィスアワー			

科目	臨床見学実習 II	単位・時間数	1単位・ 45時間
担当講師	理学療法学科教員	学 年	2年生 後期
実績経験	資格	総合病院（急性期・回復期）・クリニック・老健施設・特養・訪問・ディサービス・保健所・教育機関に従事しています。	
	理学療法士		
授業の位置づけ	臨床見学実習Ⅱでは、1年次・前期科目で学習したりハビリテーションの役割、理学療法士の仕事内容、について実際に理学療法士の下で考え方や治療法などを実習する。 基礎医学・検査法を学んで理学療法士の施設での役割や仕事内容を見学することにより、自身の将来像を思い描き、どのような理学療法士を目指すのか目標を立てる3年次につなげる。 臨床見学実習Ⅱでは主に医療機関、介護福祉施設や通所介護・訪問リハなどの見学実習となる。		
到達目標	臨床現場では、実習生であっても礼節や態度、挨拶や身だしなみ等に気を付け、社会人として常識のある行動・態度で臨むことが求められる。そのため、普段から医療人として相応しい接遇・態度・行動に気を付け普段の生活から実践することが求められる。前期の授業から臨床見学実習に出るための学習を行い、理学療法士の業務内容、医療者としての考え方などを復習したうえで実習に臨むこと。 1. 臨床現場の理学療法士の役割、具体的な仕事内容を説明できる。 2. 病院・介護・福祉現場で働く専門職としての心構えを理解し、説明できる。 3. この見学から何を心得、今後何に取り組むべきかを明確にし、説明できる。 4. 患者・利用者とのコミュニケーションを通じて、理学療法士に求められるものを学ぶ。		
授業形態	実習		

授業計画：実習前・臨床実習・実習後の学習上の注意点			
実習前 ①実習の実施方法を確認し、効果的な実習を実施できるように準備する。 ②各授業の教科書や講義資料のポイントを実習前に整理し、確認すること。 ③コミュニケーション技能、実技練習を入念に実施し、実習に備えること。			
見学実習 ①臨床現場では理学療法分野だけでなく、多職種連携を常に思い浮かべて、広範囲の知識と技術を体系的に学んでいく。 ②臨床現場では積極的に様々なことを体験、見学するように努めること。 ③習得した知識は毎日書類（ポートフォリオ）として記録すること。			
実習後 ①実習後発表では、実習中に学んだ点を整理し、発表すること。 ②面談後は成果物を書類にまとめ、提出すること。			

成績評価	実習地評価、実習後発表をもとに総合的に判断する。	受講上のルール・留意点	臨床実習地での遅刻・早退・欠席は認めない。 実習指導者に対し報告・連絡・相談は必ず行う。 感染対策に対し、施設の規則に準じて行動する。
------	--------------------------	-------------	---

課題やレポートに関するフィードバック

実習地での課題やレポートのフィードバックは実習地で実施する。
実習終了後、担当教員からもフィードバックを実施する。

	書名	著書名	出版社名
教科書	なし	学校配布資料	
参考書			
オフィスアワー	実習担当者・担任と連絡を取る		